

2026年度 第1四半期 決算説明会資料

2026年8月6日

株式会社UACJ

東証プライム
証券コード

5741



Aluminum lightens the world
アルミでかなえる、軽やかな世界

1

2026年度 第1四半期業績および通期見通し

2

事業ハイライト

3

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

4

ご参考

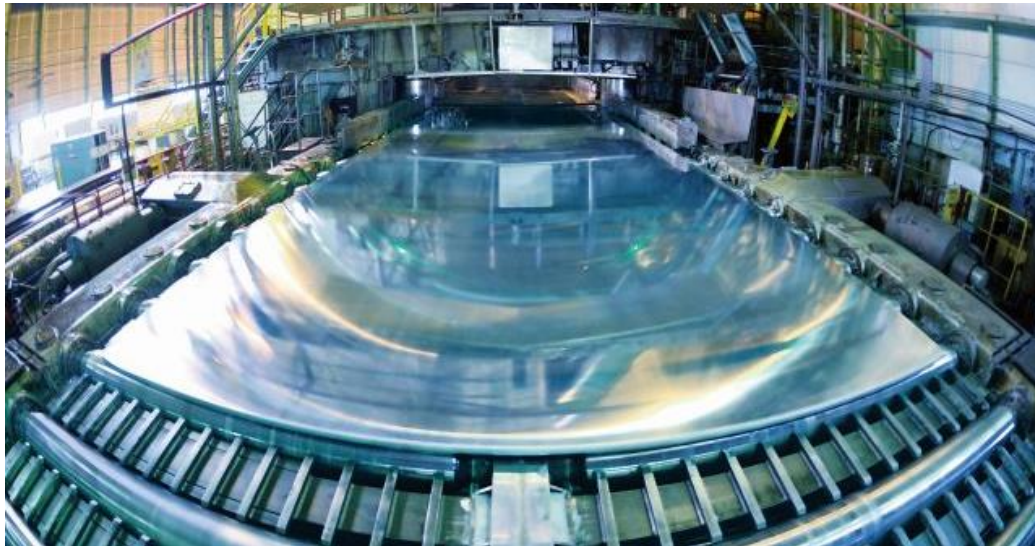
【資料全体に関する留意点】

- 事業利益： 持続的な事業活動の成果。営業利益から、棚卸資産影響、一時的・特殊な重要性のある損益を控除したもの
- 最終利益： 親会社の所有者に帰属する当期利益
- Adjusted EBITDA： EBITDA － 棚卸資産影響等
- 株式・株価： 2025年10月1日に株式分割（1株→4株）を実施。過年度の数値は株式分割後ベースに調整
- UATH： UACJ (Thailand) Co., Ltd.
- TAA： Tri-Arrows Aluminum Inc.
- UWH： UACJ Automotive Whitehall Industries, Inc
- 表示単位未満は、四捨五入のため合計値が合わない可能性があります。

2026年度第1四半期 決算概況

好調な需要環境へ確実に対応、またリサイクル設備稼働効果が増益に大きく貢献
(四半期の事業利益として過去最高を達成)

- アルミ需要はグローバルで**着実に伸長**
- 半導体製造装置向け**厚板の販売**が好調
- **価格改定の効果**が継続
- 米国アルミ市況とリサイクル原料処理能力の増強等により利益拡大
- 中東情勢の影響により**原料・副資材等の価格が上昇**



(億円)	2025年度1Q 実績	2026年度1Q 実績	差異
販売数量(千t)	334	342	8
売上収益	2,620	3,774	1,154
事業利益	79	257	178
営業利益	85	538	453
最終利益	13	359	346
Adjusted EBITDA	174	364	190

2026年度 通期見通し

需要・販売環境は好調に推移する見通し。

通期は事業環境を踏まえ、見通しおよび年間配当金を上方修正

- アルミ需要はグローバルで着実に伸長
- 日本では半導体製造装置向け厚板、IT・データセンター関連需要が拡大
- リサイクル原料の処理能力拡大効果、また需要捕捉や価格改定等で事業利益、最終利益の増益を計画
- 最新の中東情勢の影響額は120億円へ修正
(2026年5月時点150億円想定)
- 年間配当金は70円/株(前年度比+15円/株増)を計画



(億円)	2025年度 実績	2026年度 見通し (2026年5月時点)	2026年度 最新見通し	差異 (最新-5月)
販売数量(千t)	1,317	1,365	1,375	10
売上収益	11,817	13,000	14,000	1,000
事業利益	482	650	860	210
営業利益	769	640	850	210
最終利益	389	280	420	140
Adjusted EBITDA	883	1,090	1,300	210
年間配当金 (円/株)	55.0	58.0	70.0	12.0

1

2026年度 第1四半期業績および通期見通し

2

事業ハイライト

3

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

4

ご参考

事業環境認識(2026年度)

不確実性ある事業環境においてもグローバルで拡大するアルミニウム需要へ確実に応える

	日本	北米	東南アジア・その他地域
需要動向	缶材 飲料値上げにより横ばい～微減見通し	缶材 需要予測に変化はなく、 年率3%での成長 を見込む	缶材 堅調に拡大 東南アジア域:経済成長に伴う拡大 欧州域:ガラス瓶からの置き換え需要に伴う拡大
	半導体製造装置 需要は回復 2025年後半から需要が好転 2026年は着実に回復		
	IT・データセンター関連 需要は長期的に拡大する見通し	自動車部品 BEV化の推進力が鈍化	自動車熱交換器材 自動車生産・販売台数は緩やかな回復基調にあるも、インフレ進行による消費鈍化がリスク
	航空宇宙・防衛関連 地政学的リスクを背景に需要が長期的に拡大する見通し		
販売・利益	● 欧州向け缶材輸出を増加 ● 半導体製造装置向け厚板の増加により品種構成が好転 ● 2025年度からの価格改定効果	缶材 ● 2030年までの契約をおおむね確保 ● 熱間圧延の増強投資により生産能力向上 ● リサイクル設備稼働で原材料調達の柔軟性と処理能力が向上	● 2026年度後半よりUATHからも欧州向け缶材の出荷が新規開始にむけ順調な準備が進展 ● 北米向け自動車熱交材の出荷が継続 ● 当社グループの安定した供給力でサプライチェーンに貢献
		自動車部品 ● 自動車の軽量化ニーズを確実に捕捉し、徹底したコストダウンを継続	
中東影響	● 原材料・副資材、エネルギー価格が上昇 ● 2026年7月出荷分より価格改定 ● 一部副資材の調達等に影響があるも、顧客との調整により安定供給を継続	● 中東情勢の緊迫化に起因する影響は現段階では限定的	● 一部缶材で、中東向けの出荷はあるも、影響は軽微 ● 原材料・副資材、エネルギー価格が上昇 ● 製造コストの高騰に応じた価格改定の交渉を継続 ● 一部副資材の調達等に影響があるも、顧客との調整により安定供給を継続
関米税国	—	● 米国のアルミニウム市況は当面高水準で推移することを見込むが、4Q以降は状況を注視	—

2026年度第1四半期業績および通期見通し

1Qでは3極でのリサイクル設備稼働の効果等により、事業利益が大幅に拡大
通期は事業環境を踏まえ、見通しおよび年間配当金を上方修正

(単位: 億円)

	FY25 1Q (実績)	FY26 1Q (実績)	増 減	FY26見通し (5月時点)	FY26見通し (最新)	増 減
売上収益	2,620	3,774	1,154	13,000	14,000	1,000
事業利益	79	257	178	650	860	210
棚卸資産影響等	6	281	275	△ 10	△ 10	0
営業利益	85	538	453	640	850	210
親会社の所有権に帰属する 当期利益	13	359	346	280	420	140
1株あたり当期利益 (円/株)	7.2	198.2	191.0	154.6	232.0	77.4
Adjusted EBITDA	174	364	190	1,090	1,300	210
配当金(円/株)	—	—	—	58.0	70.0	12.0
LME(\$/t)	2,447	3,576	1,129	3,200	3,169	△ 31
前提 為替レート(円/\$)	145	160	15	153	157	4
条件 為替レート(THB/\$)	33.1	32.6	△ 0.5	32.5	32.9	0.4
ドバイ原油(\$/bbl)	67	96	29	90	99	9

アルミ板 品種別売上数量

グローバルで需要が拡大傾向、実需に応じて数量計画を見直し

(単位:千t)

	FY25 1Q (実績)	FY26 1Q (実績)	増 減	FY25通期 (実績)	FY26通期 (最新)	増 減
缶材	226	228	2	901	922	21
日本*1	58	62	4	214	222	8
TAA*2	114	112	△ 2	443	443	0
UATH*3	63	68	5	274	281	7
内部取引*4	(8)	(13)	(5)	(30)	(24)	(△ 6)
自動車材	33	32	△ 1	137	141	4
厚板	8	14	6	39	56	17
箔地	12	11	△ 1	41	42	1
その他一般材	54	57	3	199	214	15
合計	334	342	8	1,317	1,375	58

*1 日本における販売(輸出分含む)

*2 TAAIにおける販売(日本、UATHからの出荷分含む)

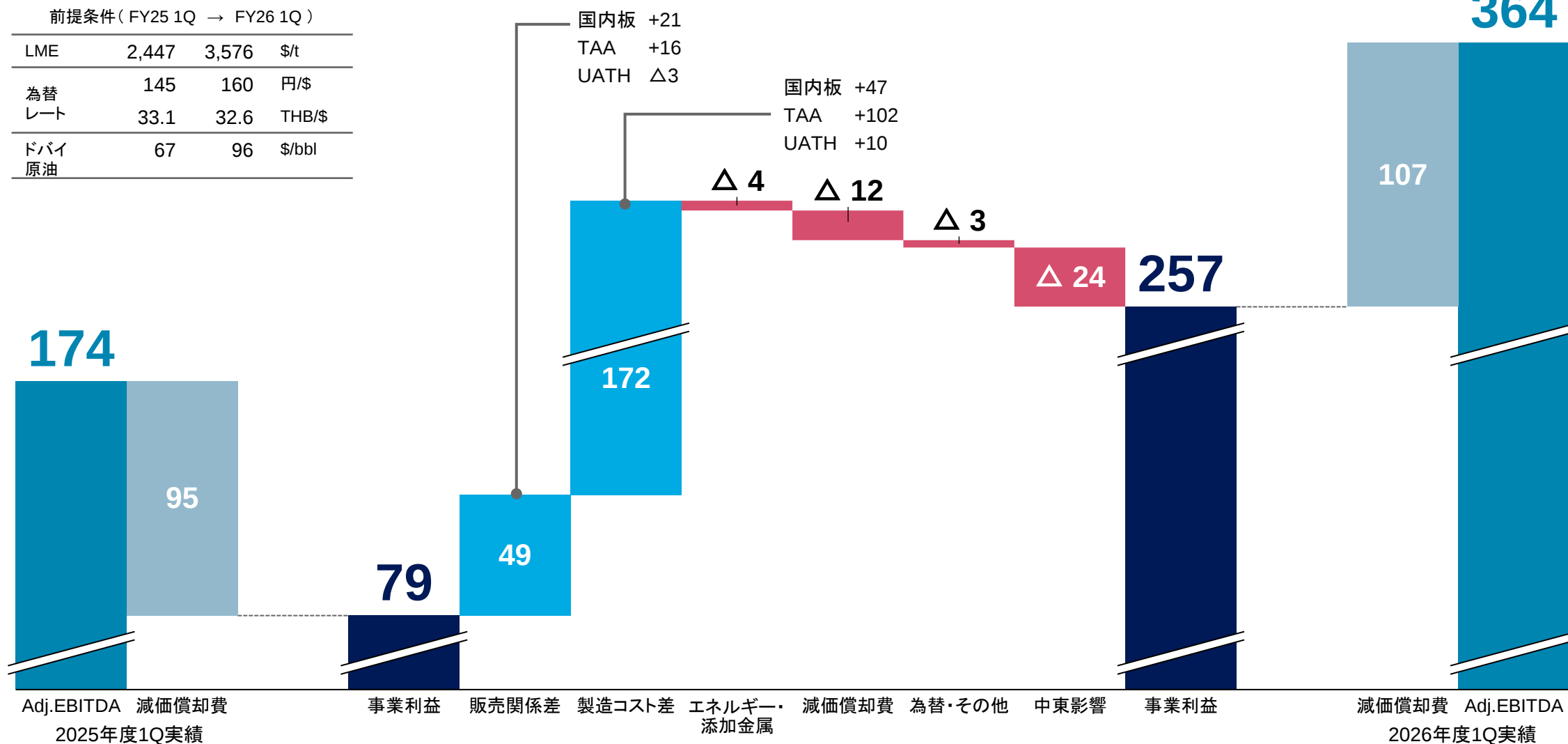
*3 UATHIにおける販売

*4 各拠点間の内部取引による重複数量

【25年度1Q実績 対 26年度1Q実績】事業利益・Adjusted EBITDA 分析

リサイクル設備の稼働が増益に大きく貢献

(単位: 億円)



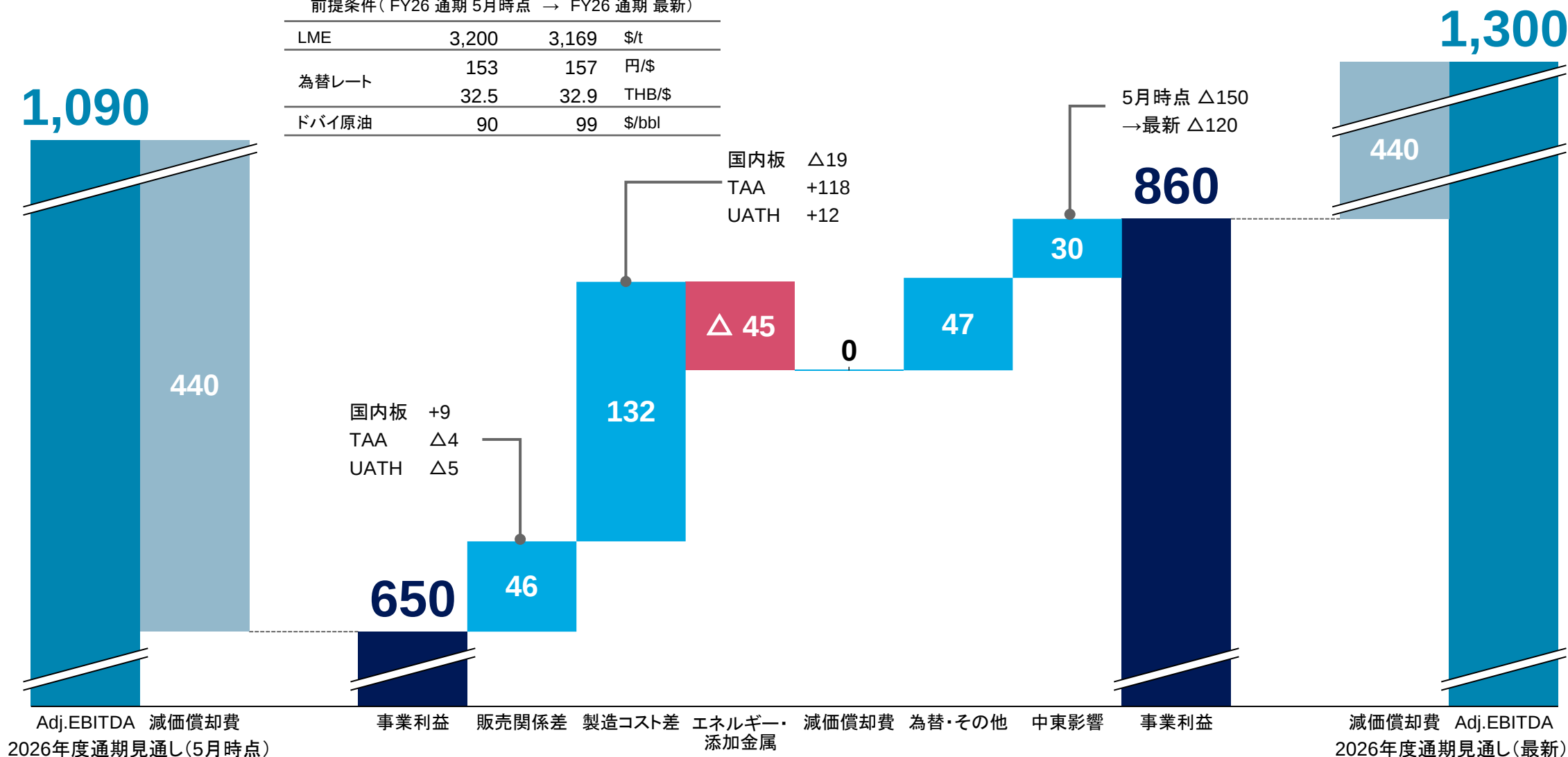
【26年度通期見通し(5月時点 vs 最新)】事業利益・Adjusted EBITDA 分析

リサイクル原料の活用効果拡大および中東影響の見直し等により上方修正

(単位: 億円)

前提条件 (FY26 通期 5月時点 → FY26 通期 最新)

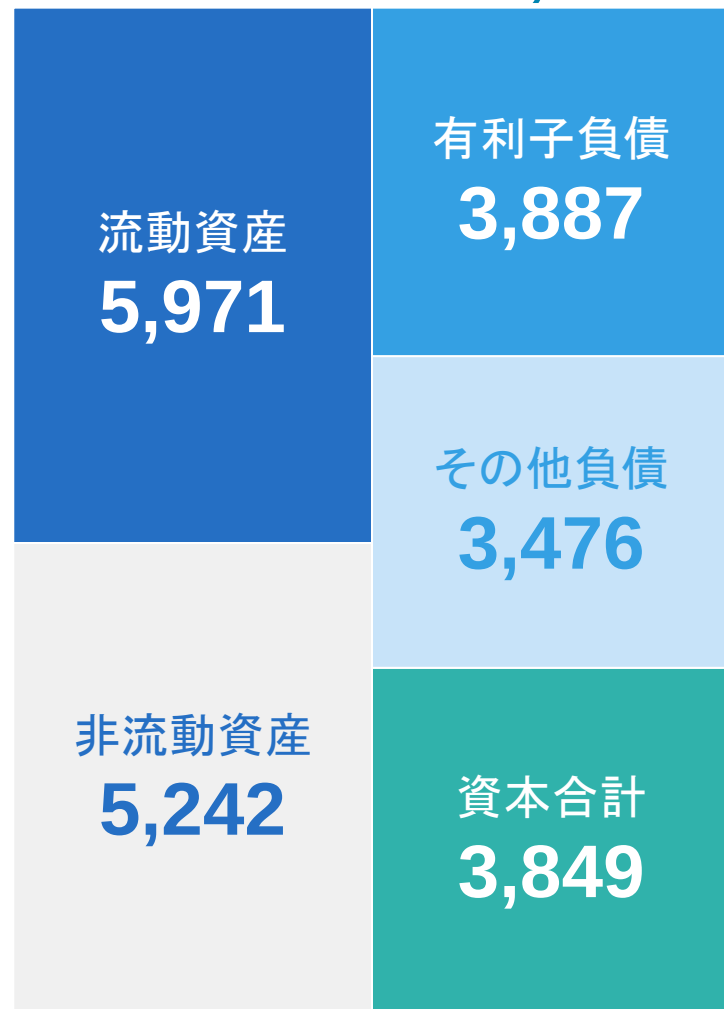
LME	3,200	3,169	\$/t
為替レート	153	157	円/\$
	32.5	32.9	THB/\$
ドバイ原油	90	99	\$/bbl



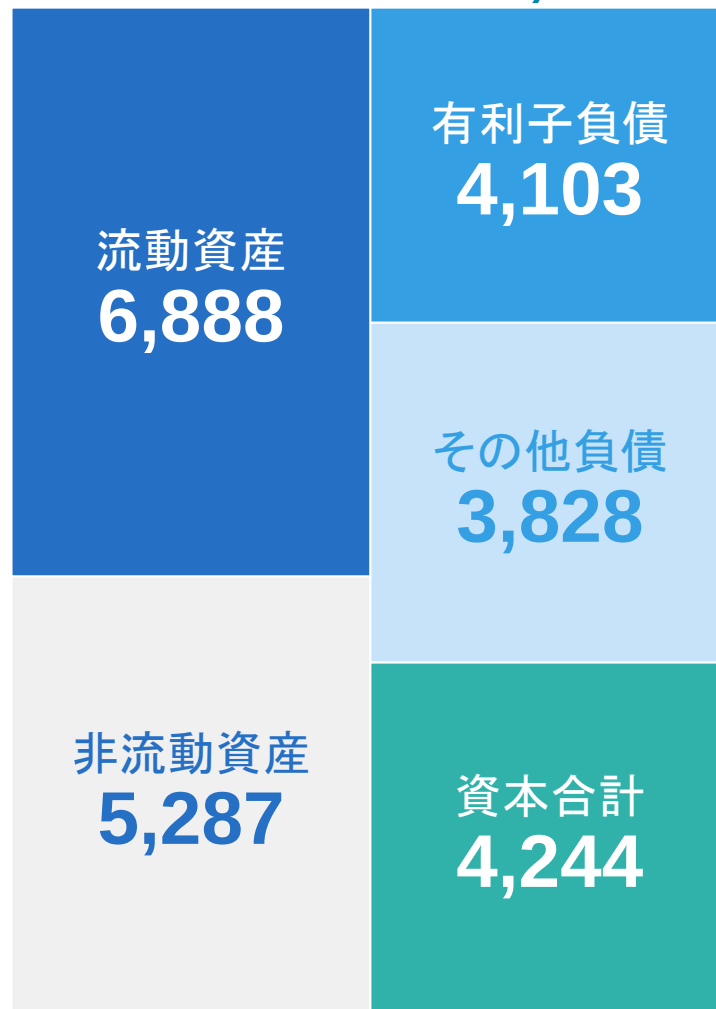
2026年度第1四半期末 連結財政状態計算書

地金市況価格の高騰により運転資金が増加

2026年3月末総資産 **1兆1,212億円**



2026年6月末総資産 **1兆2,175億円**



増減額: **+963億円**

主な増減要因

流動資産

【棚卸資産】
+416億円
地金市況高騰による影響

非流動資産

【有形固定資産】
戦略投資(深谷・小山・TAA)
が順調に進捗

有利子負債

+216億円
地金市況等高騰による運転
資金の増加

D/Eレシオ

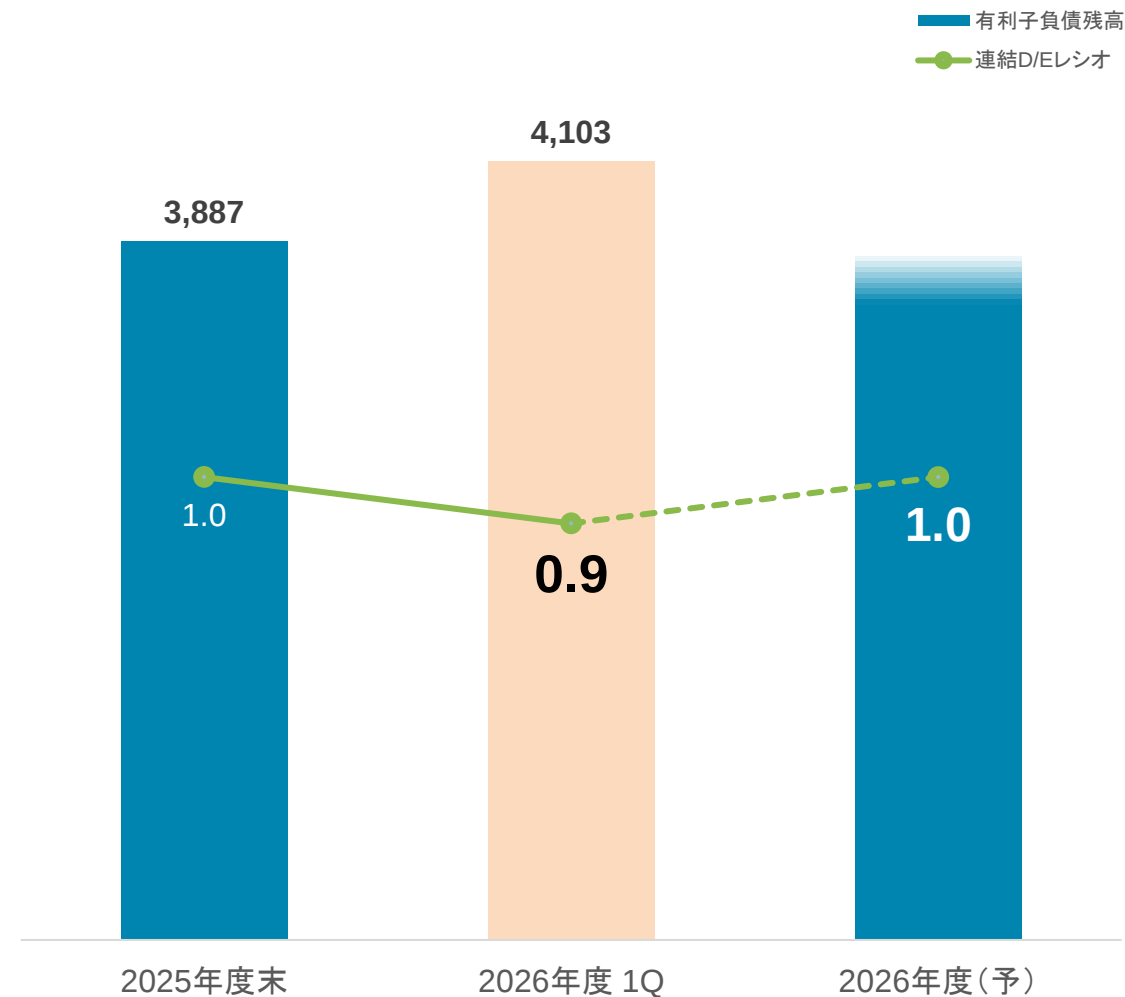
0.9倍
⇒第4次中計目標水準を堅守

1 | 業績 連結キャッシュ・フロー計算書

連結キャッシュ・フロー(億円)

	2025年度 1Q	2026年度 1Q
税引前利益	37	510
減価償却費	95	107
棚卸資産増減(△は増加)	△50	△395
債権債務増減他	△146	△256
法人税等	△17	△37
営業キャッシュ・フロー 計	△82	△72
設備投資 他	△172	△159
フリーキャッシュ・フロー	△254	△231
ファイナンススキーム・配当 他	△176	15
現金及び現金同等物 (△は増加)	32	5
外貨建借入金換算差 (△は増加)	17	△5
有利子負債(△は増加)	△381	△216

有利子負債残高(億円)・連結D/Eレシオ*(倍)



* 連結D/Eレシオは、有利子負債のうち借入金・社債を基に算出し、また劣後特約付ローンの資本性を考慮

1 2026年度 第1四半期業績および通期見通し

2 事業ハイライト

3 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

4 ご参考

国内 一板事業

半導体製造装置向け厚板需要が回復し、計画を上回る販売

使用用途	2026年度の見通し
缶材	国内需要は横ばい～微減の見込み 欧州市場への出荷を増加
自動車材	中東影響による一時的な減産影響あるも、需要は堅調
半導体製造装置向け	計画を上回る需要の回復が継続見込み
IT・データセンター関連	IT筐体、蓄電池やコンデンサ向け等で好調見込み

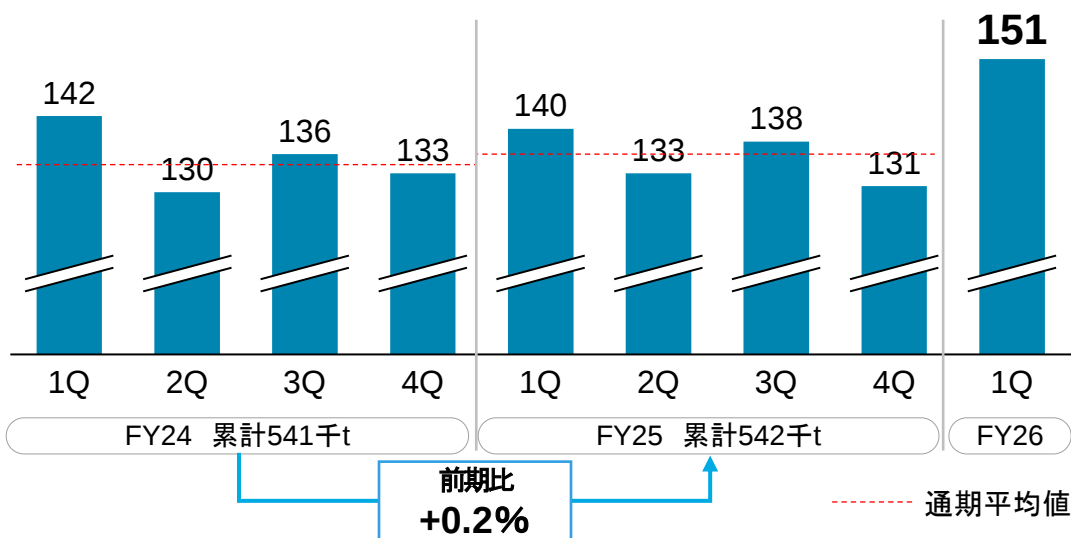
第1四半期における生産・販売の状況

- 半導体製造装置向け厚板、欧州向け缶材をはじめとした需要が強く、日本国内各製造所は高操業状態が継続
- 中東情勢を受けて各種コストが上昇
- UACJリサイクル率^{*1}は74%を超えた。2030年度目標80%を目指し、さらなるリサイクルアルミ原料の活用のため、UYAR^{*2}の設備本格稼働等、諸施策を加速

2026年度見通し

- 半導体製造装置向け厚板向けの出荷は順調に拡大し、第2四半期以降も高い需要が継続すると見込む
- デジタル技術の進展を背景に、データセンターやIT関連材向けの需要が好調に推移すると見込む
- 中東情勢を受けての各種コストの上昇を背景とし、2026年7月出荷分より製品価格を改定

国内板事業販売数量推移(千t)



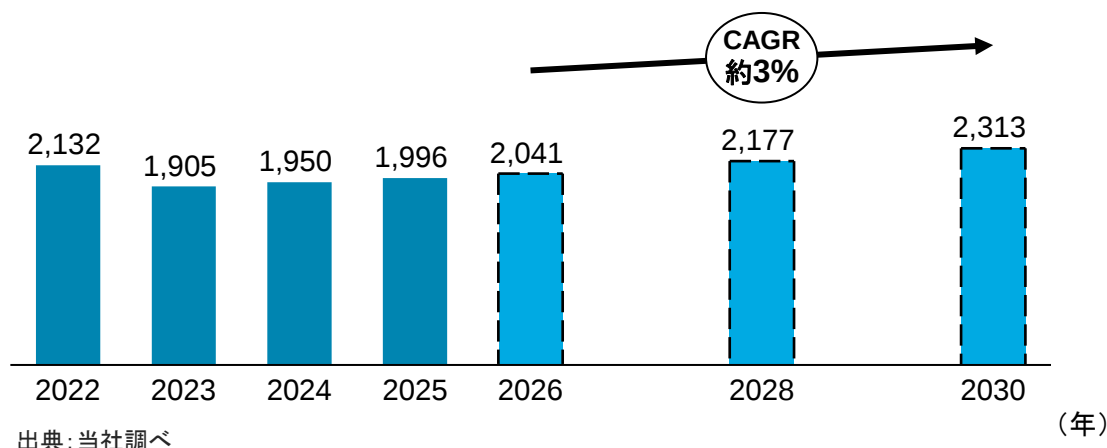
^{*1} UACJリサイクル率: (循環アルミ量 / 溶解炉への挿入量) × 100(%) ただし純アルミ材を除く

^{*2} UYAR: UACJ山一アルミ缶リサイクル株式会社

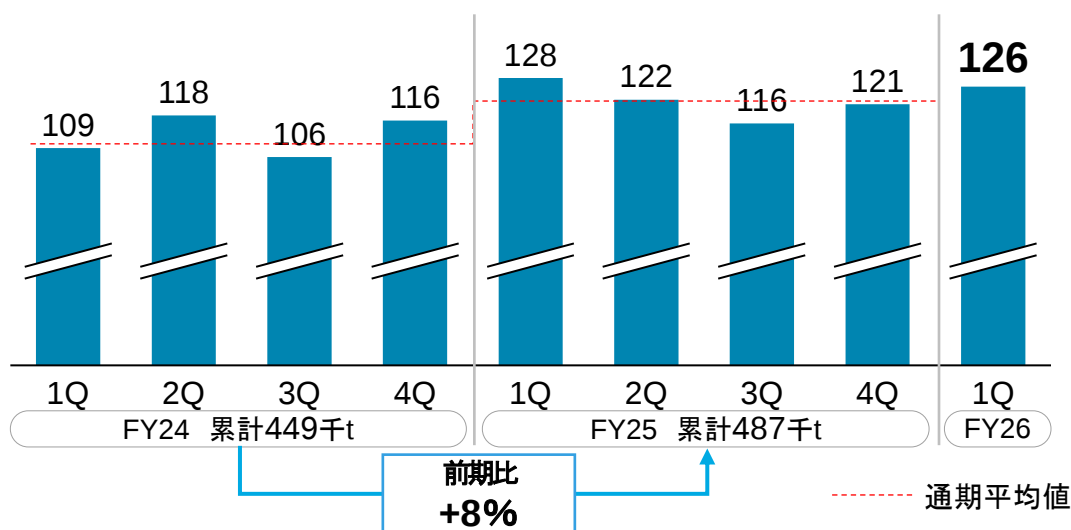
米国 - Tri-Arrows Aluminum Inc.

米国缶材需要は、2030年まで年平均成長率約3%で推移する見通しに変更なし

米国缶材需要の推移(千t)



TAA販売数量推移(千t)



市場環境

- 缶材需要は引き続き堅調。
2030年まで年平均成長率約3%で安定した需要成長が見込まれる
- 米国の新製品投入におけるアルミニウム採用比率の拡大、および消費者志向が缶材需要を牽引
- 米国内既存ミルの再稼働ラインと新規ミルの立ち上げ加速により、米国の需給環境が緩和

第1四半期における生産・販売の状況

- 2025年度の熱間圧延増強により生産能力が向上、数量拡大に寄与
- リサイクル設備稼働で原材料調達柔軟性と処理能力が向上
- 2030年までの長期契約で販売数量の大部分を確保済み

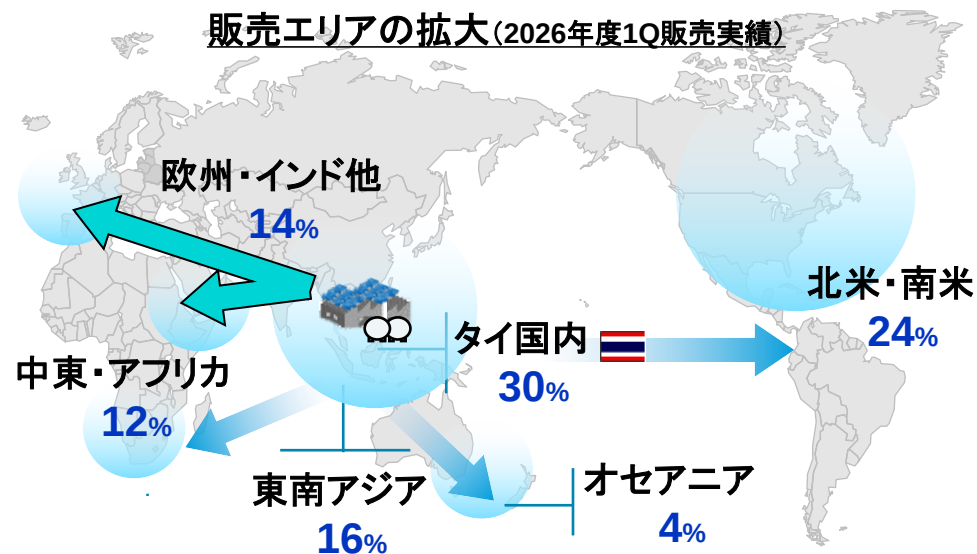
2026年度見通し

- 米国のアルミニウム市況は当面高水準で推移することを見込むが、4Q以降は状況を注視
- リサイクル原料価格の記録的な好環境により、強い財務パフォーマンスを享受。今後の推移を注視
- 着実な操業と規律あるコスト管理・設備投資により、実力の稼ぐ力の拡大に注力

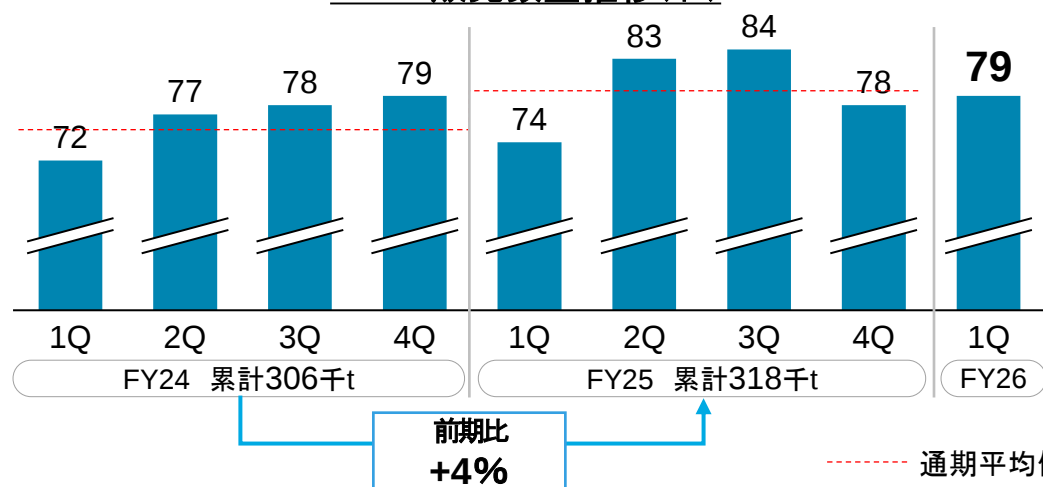
タイ - UACJ (Thailand) Co., Ltd.

人口増加と経済成長にともなう飲料消費増加を背景に、需要は拡大傾向

販売エリアの拡大(2026年度1Q販売実績)



UATH販売数量推移(千t)



市場環境

- 缶材のグローバルでの需要は拡大していく見通し。
特に欧州・アメリカは需給がタイト、かつアジアの需要も底堅い
- インドにおける缶材需要は旺盛

第1四半期における生産・販売の状況

- 欧州、インド等、販売ポートフォリオ改善に向けて調整を継続
- UBC*調達ルート拡大により、生産コストの最適バランスを構築

2026年度の見通し

- 欧州向け缶材出荷が開始
- 北米向け自動車用熱交換器材の出荷が継続
- 2028年度まで、TAAに対するサポートコイルの販売を継続予定
- 安定した品質・納期による差別化で価格改定を継続

*UBC 使用済み飲料缶 (Used Beverage Can)

1 2026年度 第1四半期業績および通期見通し

2 事業ハイライト

3 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

4 ご参考

株主還元方針

2026年度配当金を上方修正し、年間配当金を70円/株へ

(2025年度実績比 +15円/株、前回公表比 +12円/株)

株主還元方針
(第4次中期経営計画)

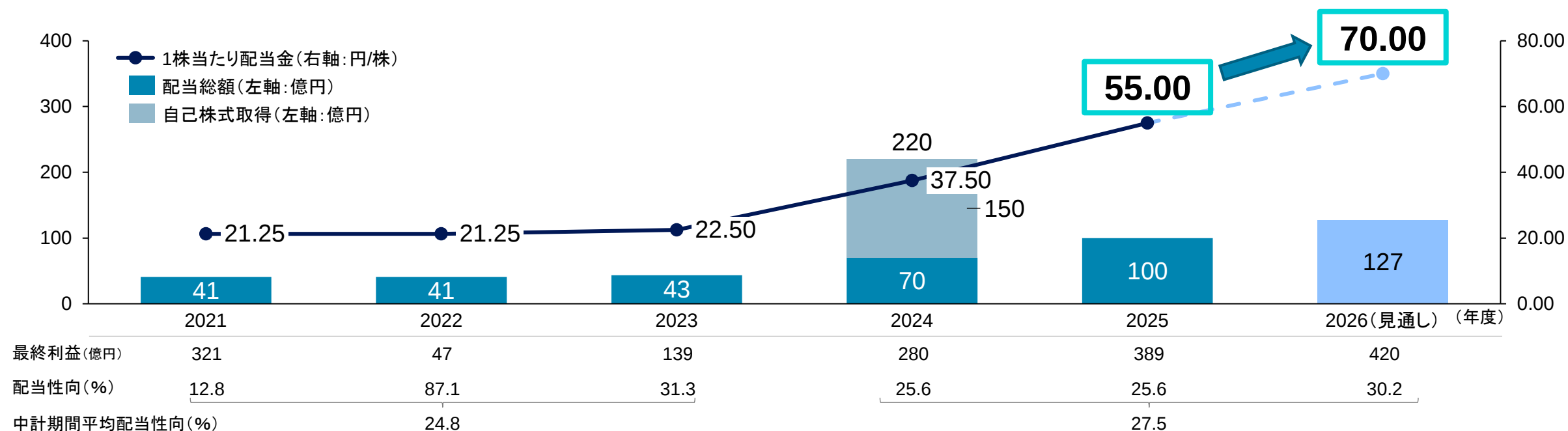
基本方針: 安定的かつ継続的な配当を目指す

中期計画: 第4次中計(24~27年度)期間中の配当性向は最終利益の30%以上を目途とする

2025年度配当実績

年間**55円/株** (中間配当金**20.0円/株**、期末配当金**35.0円/株**)

2026年度配当計画

年間**70円/株** (中間配当金**35.0円/株**、期末配当金**35.0円/株**) ※2026年5月公表時 58円/株(+12円/株)

資本収益性の向上、株価を意識した経営 エクイティスプレッドの確実な創出を目指す

企業価値の創出

ROE

2023年度 **5.3%** → 2025年度 **12.2%** 2027年度目標値 **9%以上**

収益性の向上

- ✓ 価値創造プロセス
- ✓ 事業戦略・成長シナリオ
- ✓ 事業利益 600億円
- ✓ ROIC目標 9%
- ✓ 事業利益+金利・税マネジメント

成長投資

- ✓ 成長分野に向けた能力増強投資
⇒ AI・半導体関連、
航空宇宙・防衛分野、
米国缶材、リサイクル 等

資本コストの低減

株主資本
コスト

2023年度 **9%** → 2025年度 **8%台** 2027年度目標値 **7%台**
(β値が改善)

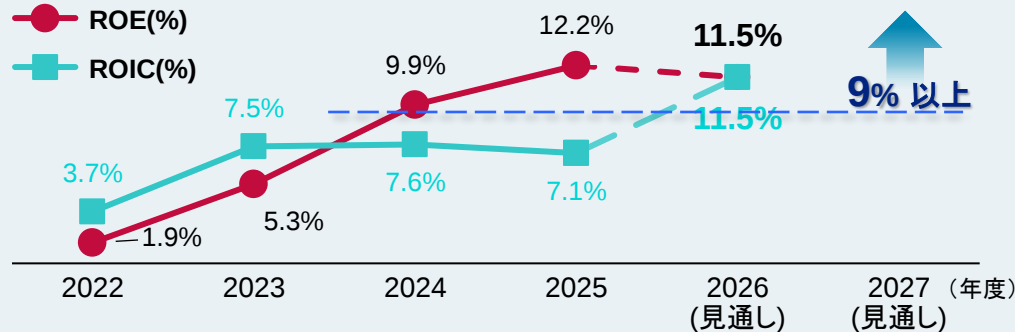
財政状態の安定化

- ✓ バランスシートの最適化の実現
⇒ 財務健全性
- ✓ 資金調達力の強化
- ✓ 効率的な経営資源の活用

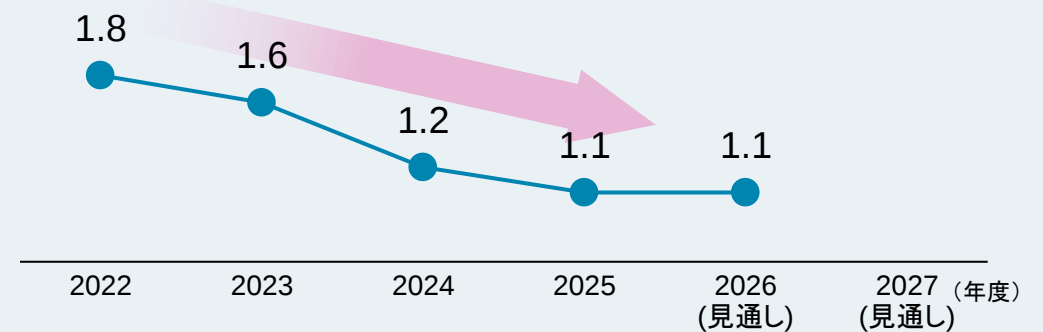
株主資本コストへの対応 -β値の改善-

- ✓ 資本市場との対話
- ✓ 情報開示の強化
- ✓ 非財務分野での価値創出

ROE・ROIC 推移



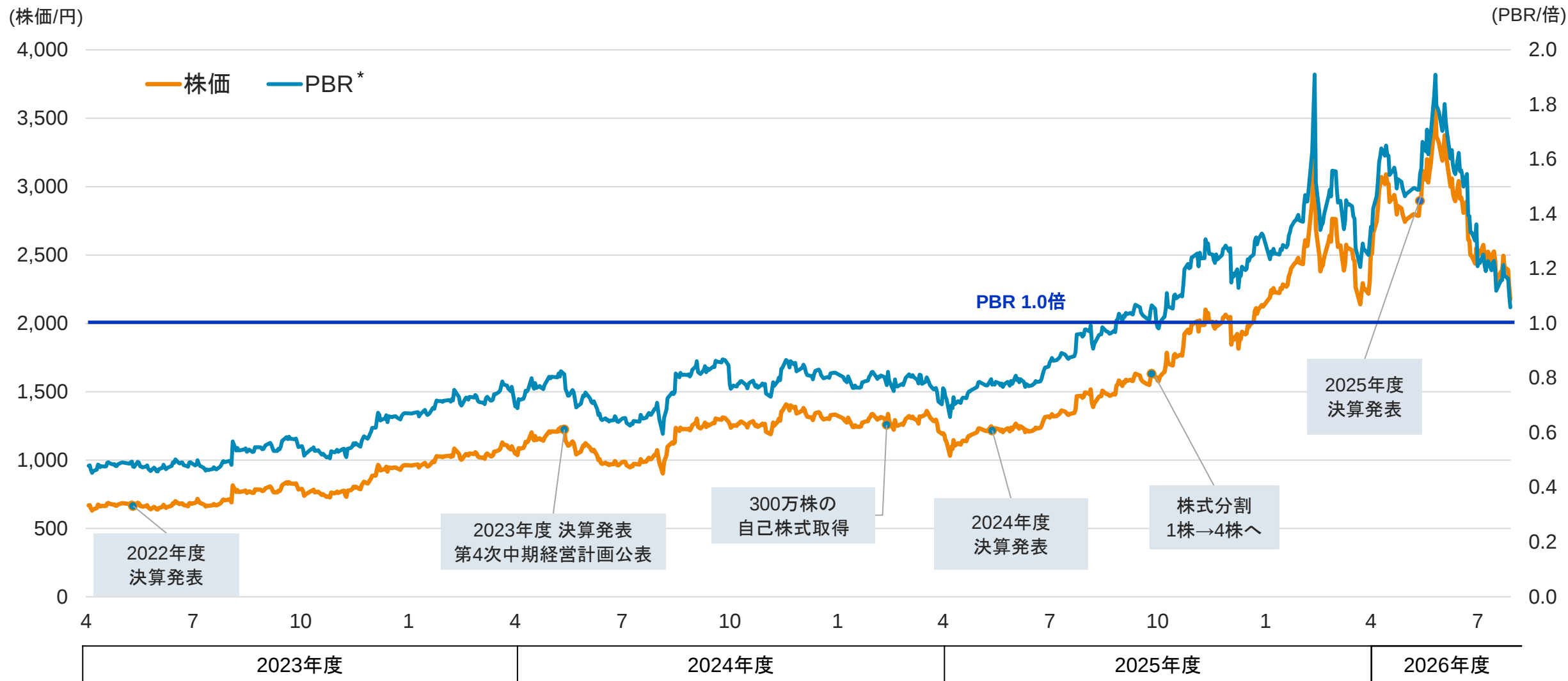
β値推移



3

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

株価およびPBR推移



*PBR = 株価／1株当たりの親会社の所有者に帰属する持分(2026年6月末)

© UACJ Corporation. All rights reserved.

JR西日本との異業種共創で、新たな価値を創造

現場起点の共創を通じ、社会課題解決に繋がる成長分野の構築・事業創出へ挑戦



名古屋製造所におけるAIカメラの活用



トップ対談「JR西日本×UACJ 安全を起点に現場DXで産業の未来を共創する」を実施

(左) 西日本旅客鉄道 代表取締役社長 倉坂昇治様
(右) UACJ 代表取締役 社長執行役員 田中 信二

これまでの取り組み

両社の知見を融合し、安全性向上をはじめとした現場課題解決に取り組む

- JR西日本開発のAIカメラ「mitococa」を活用した、現場参画型の安全DXを推進(2023年～)
- 課題抽出から運用改善まで現場一体で取り組み、実運用に耐えるAIモデルを創出

共創領域の広がりと今後の可能性

安全対策にとどまらない現場変革を目指す

(取り組みテーマ一例)

- 品質保証、検査工程におけるAIの適用
- 技能、作業ノウハウをデジタル化して蓄積し、技術継承に活用する基盤づくり
- 両社のアセットを活用したアルミリサイクルの拡張



同じ課題意識を持つ多様なパートナーとのオープンイノベーションを通じ、
幅広い産業分野へ共創の輪を広げる

ご参照)

2026年6月30日 [UACJとJR西日本、現場起点の異業種共創で新たな価値創造へ | 株式会社UACJ](#)

2026年6月30日 [【トップ対談】JR西日本×UACJ 安全を起点に現場DXで産業の未来を共創する | 株式会社UACJ](#)

【社会貢献活動】“世界への挑戦”のサポート

「好奇心と挑戦心」に共鳴する活動を支援し、企業価値の向上へ繋げる

車いすテニスプレーヤー 小田凱人選手への支援 ^{*1}



限界を超えて「世界を変える」思いへの共鳴

当社はアルミの特性を生かした車いすテニスのフライトケースを寄贈する等の支援を継続。

車いすテニスで限界を超え、“世界を変える”小田選手が目標に挑むその姿勢は、UACJグループ行動指針「好奇心と挑戦心」の象徴。

両者の姿勢を重ね合わせたCMの展開等を通じ、環境負荷低減で持続可能な社会に貢献する企業姿勢を発信。

熱気球チームへの協賛 ^{*2}



「好奇心と挑戦心」を体現する活動への支援

当社は熱気球チーム「Balloon Team Ze'phyr(ゼフィール)」へ協賛を開始。

世界選手権等、高い目標に向かって挑み続けるチームの姿勢が、

「好奇心と挑戦心」を体現するものと共鳴。

協賛を通じた“世界への挑戦”のサポートにより、ブランドイメージの浸透を図り、当社の企業価値向上へ繋げる。

ご参照)

^{*1} 2026年6月18日 [小田凱人選手出演のCMスタート ―限界を超え“世界を変える”思いを力強く表現―](#)

^{*2} 2026年7月27日 [熱気球チームへの協賛を開始、世界への挑戦をサポートし軽やかな世界の実現に貢献](#)

事業説明会のご案内

日時

2026年10月19日（月）午後予定

開催形式

Zoom開催 ※9月中旬以降ご案内予定

テーマ

「アルミニウムの循環型社会」形成への前進
: 福井リサイクル設備の稼働と今後の展望について

1 2026年度 第1四半期業績および通期見通し

2 事業ハイライト

3 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

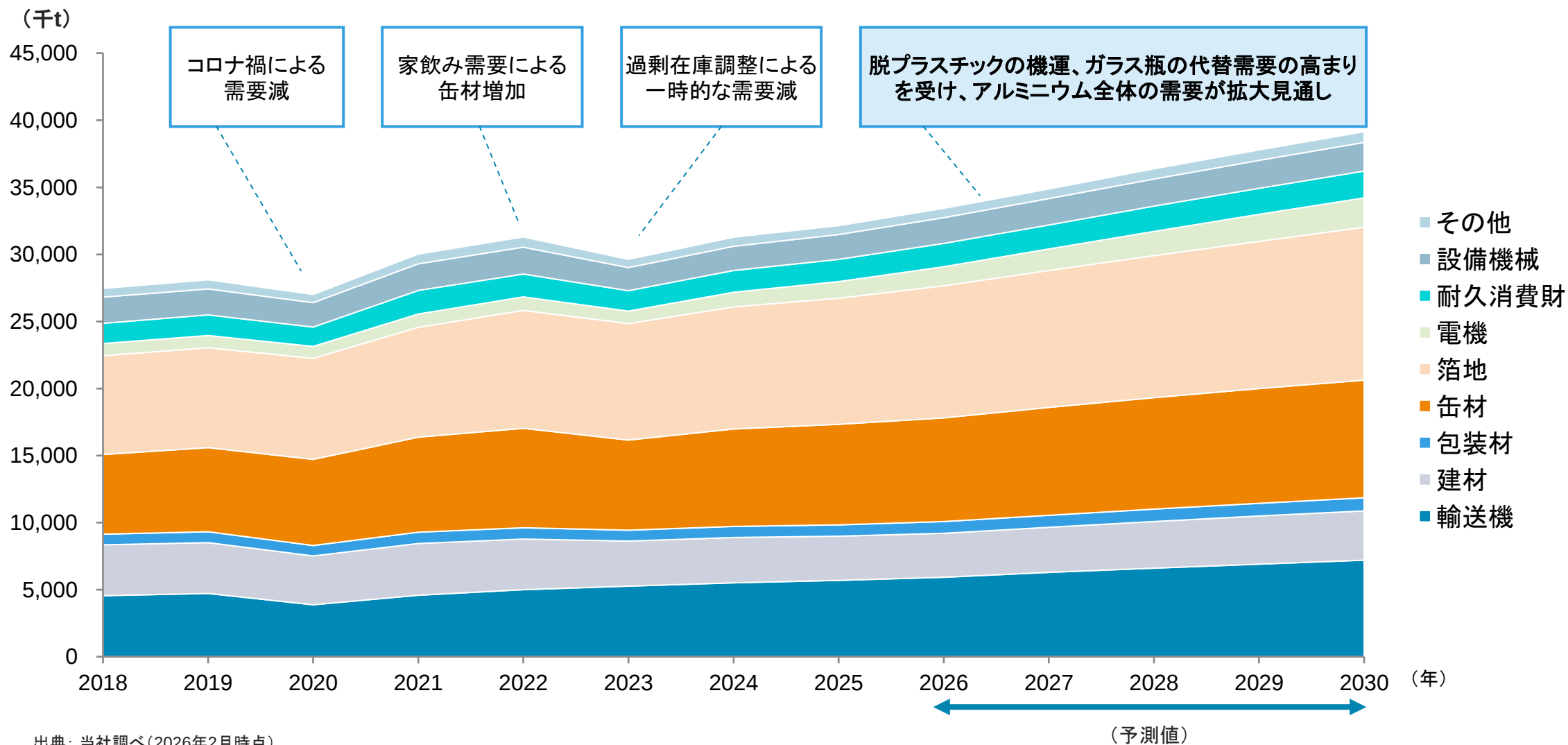
4 ご参考

4

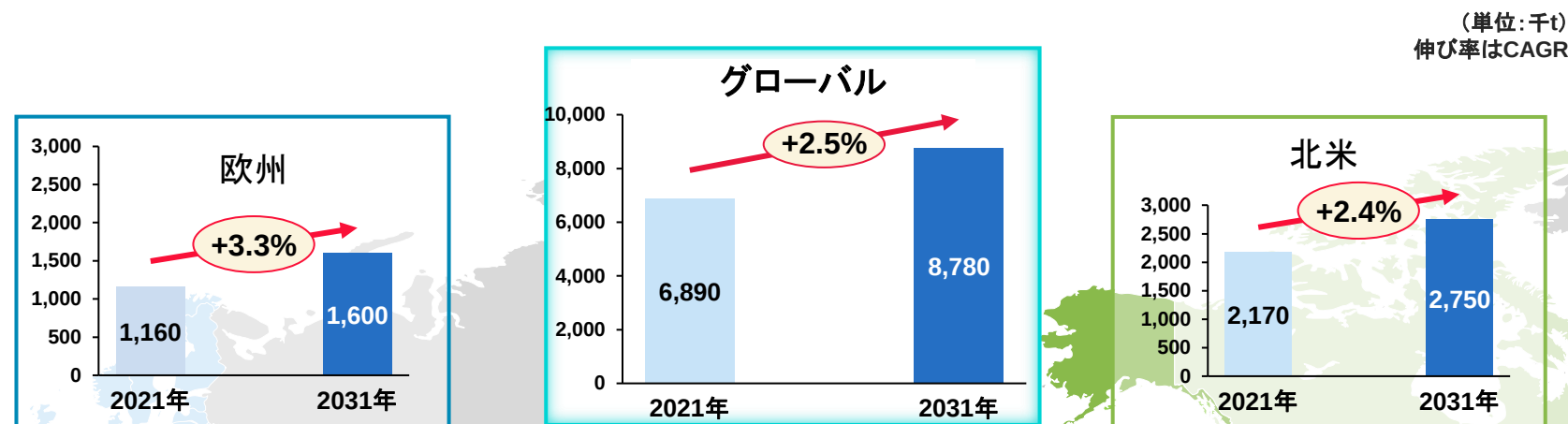
ご参考

アルミニウム圧延材 グローバル需要予測

各分野において、アルミニウム需要は引き続き拡大傾向



4 | ご参考 アルミ缶材需要予測と主な供給拠点



北米

- 年平均成長率約3%の成長が見込まれる
- アルミのリサイクル性の高さを背景に、他容器からの置き換え需要が拡大

欧州

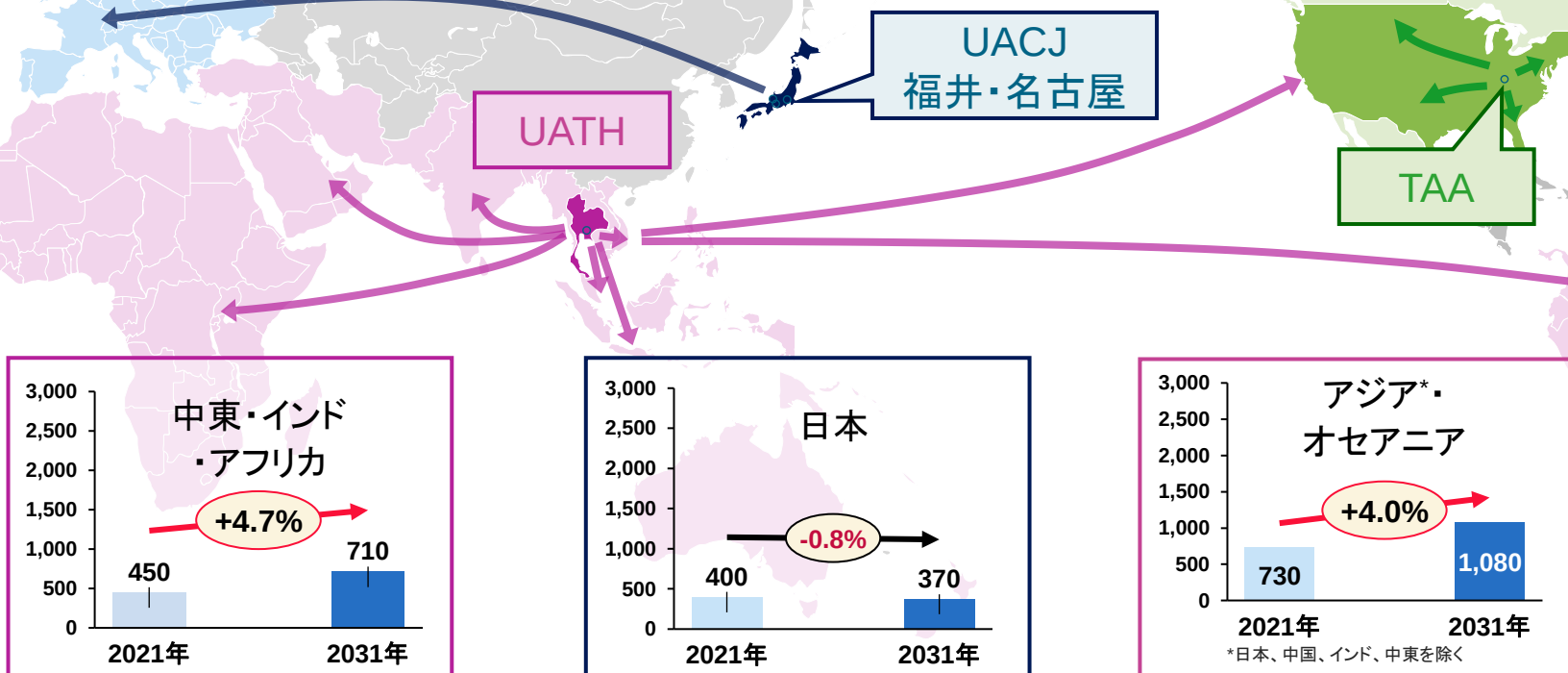
- 年平均成長率3%以上の成長が見込まれる
- ガラス瓶の置き換え需要が拡大

東南アジア

- 年平均成長率4%以上の成長が見込まれる
- 人口増加と経済成長(GDPの増加)に伴い、飲料の消費そのものが拡大

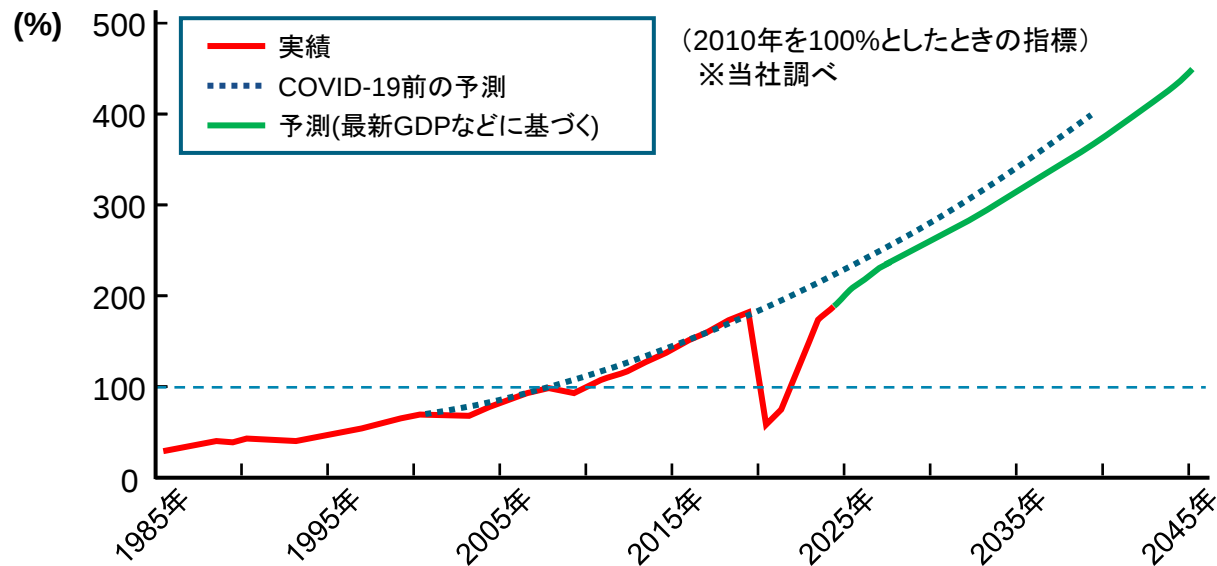
日本

- 2030年まで需要はほぼ横ばい～微減と見込まれる

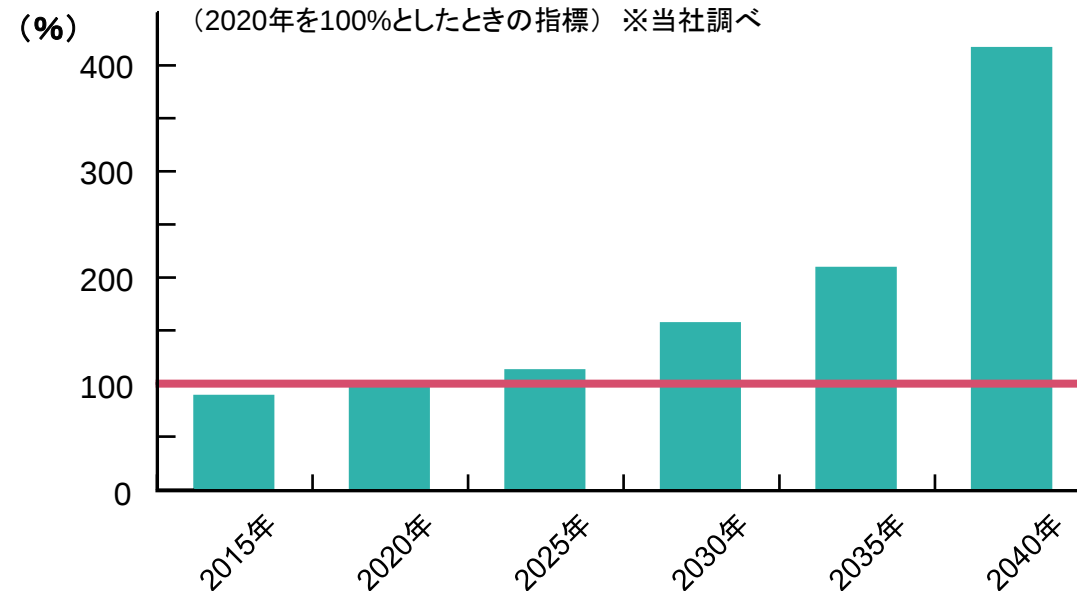


航空宇宙・防衛材関連の需要動向

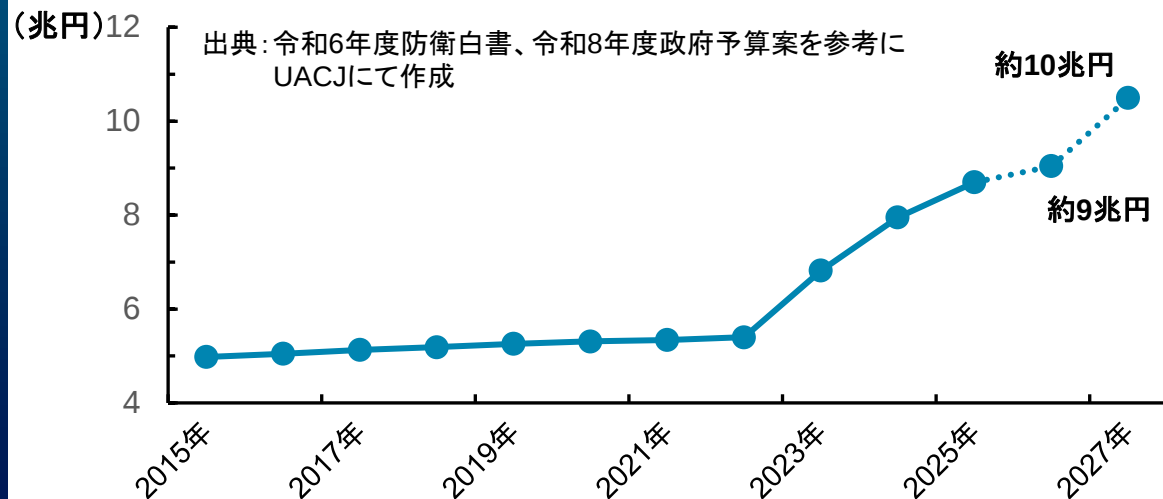
航空分野の需要動向(航空旅客輸送量推移)



宇宙分野の需要動向(宇宙産業の世界市場規模)



防衛分野の需要動向(日本の防衛関連費推移)



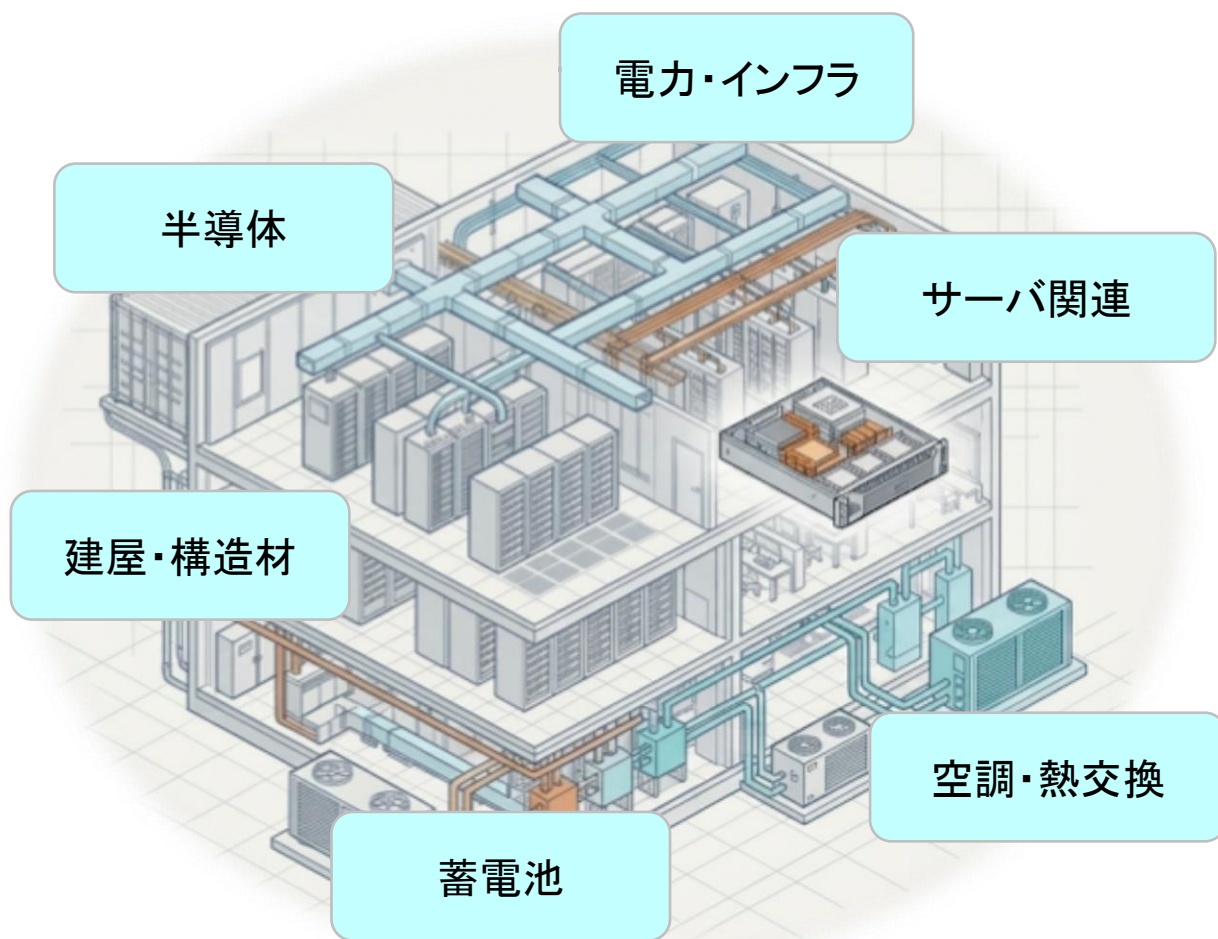
【取り組み施策】

- 航空旅客需要の回復 ⇒ 北米航空機メーカーの[認証取得](#)
- 宇宙市場の拡大 ⇒ 国内プライムメーカーでの[シェア拡大](#)
- 防衛予算の増額 ⇒ [増産体制構築](#)による需要捕捉

全分野で板・押出・鍛造の供給力を最大化し

2030年度売上**2.3倍**(2024年度比)へ

成長領域におけるアルミニウム活躍の場の拡大 デジタル情報技術の急速な発展を、アルミニウムが下支え



データセンターのイメージ図

	活用中の領域	可能性のある領域
半導体	● 半導体製造装置用途の厚板	
電力・インフラ		● バスダクト ● ケーブルラック
建屋・構造材		● 放熱用アルミ板 (壁面・天井等)
サーバ関連	● HDD用ディスク ● コンデンサー箔	● CPU冷却部材 ● サーバラック
蓄電池	● LIB電極箔	● 電池冷却部材
空調・熱交換	● 空調用フィン ● ヒートシンク	● チューブ等

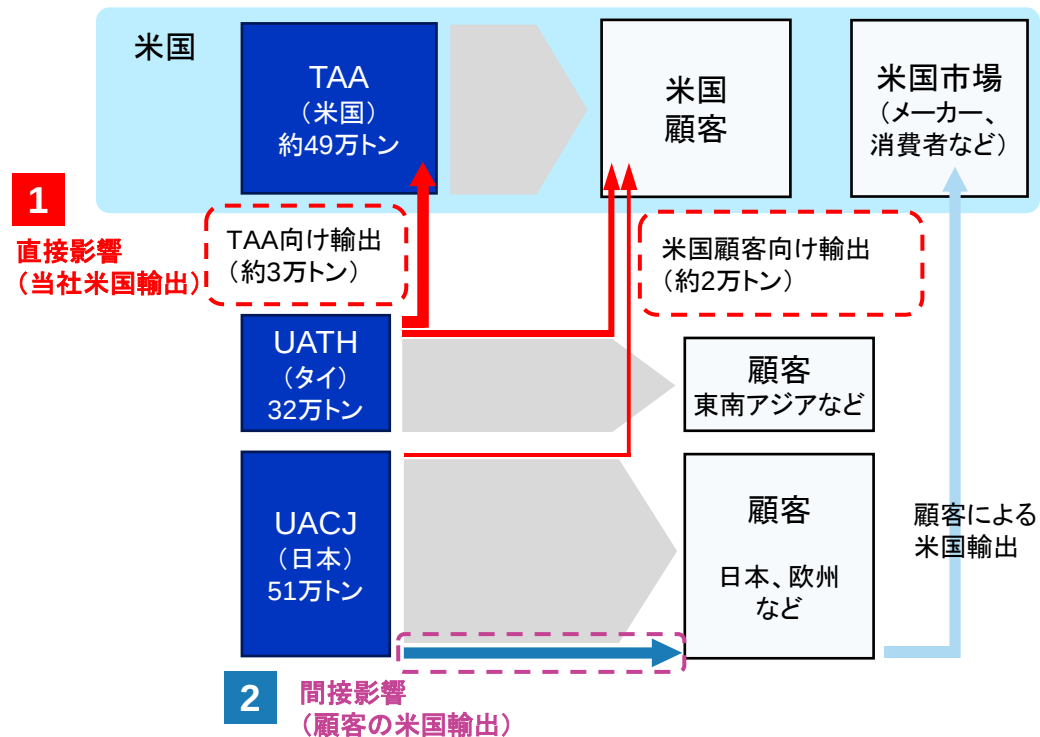


【UACJの総合力】
すそ野の広いアルミニウム製品の需要を先取りして応えるため、R&DセンターをUACJ名古屋製造所内に設置。
名古屋製造所の多品種製造能力と合わせ、お客様の課題解決に資する製品開発を進める

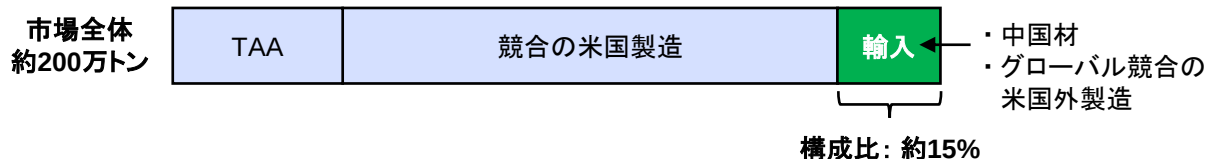
アルミニウム製品を取り巻く米国追加関税とその影響

関税はTAAの収益を押し上げる要因へ。2028年までUATHからコイルの輸入を継続見通し

■ 板事業の販売構成 ※数値は2025年度販売数量



■ 米国缶材市場の構成 (2025年) ※UACJ推定



■ UACJグループへの影響

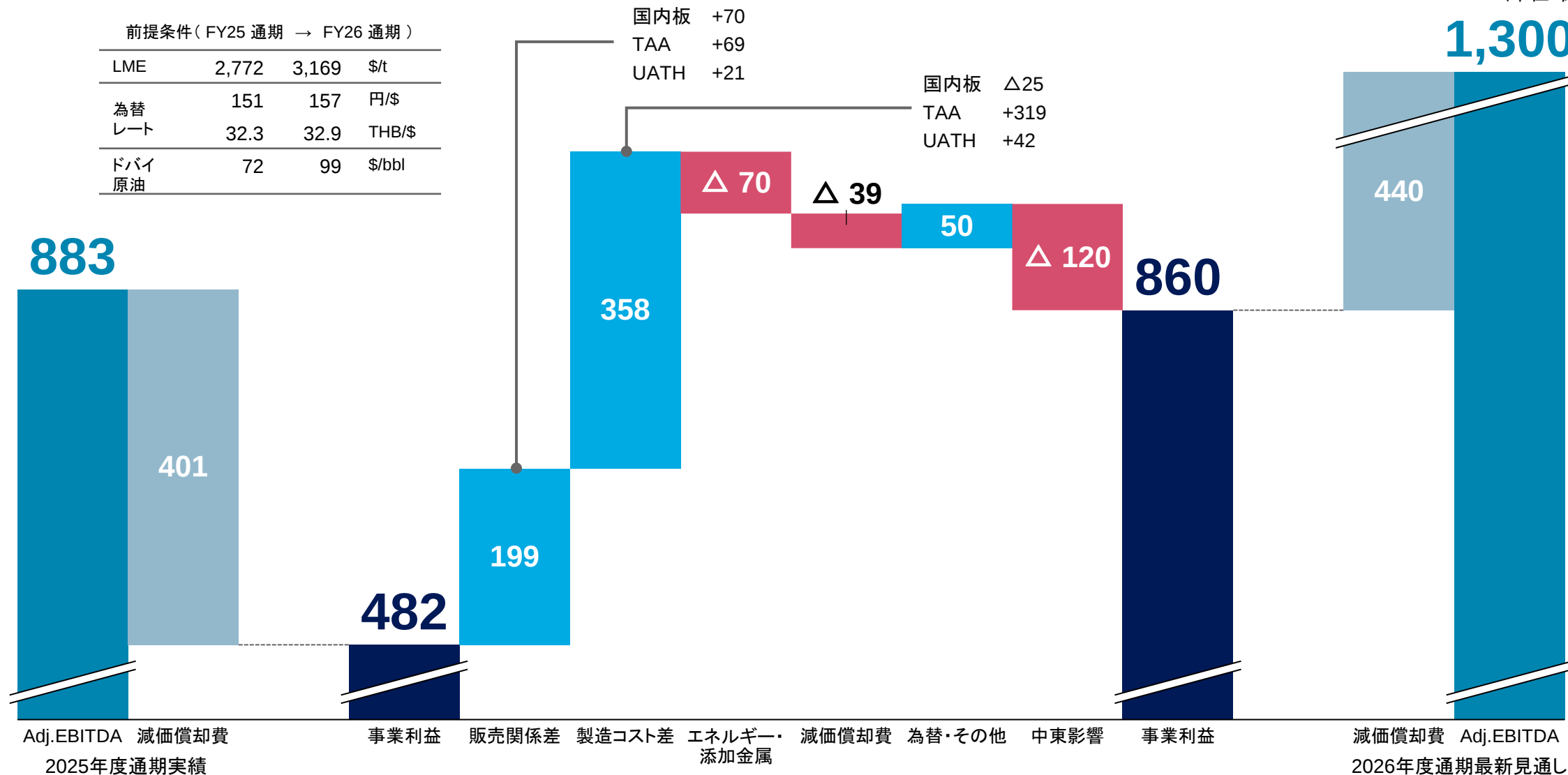
分野	UACJグループへの主な影響
1 直接影響	
缶材	25年は契約済みの販売量に大きな変動はない見込み 26年以降は、追加関税・適用除外制度は廃止されるが、UATHからの販売は28年まで継続する計画
自動車関連材	米国内競合の工場閉鎖を受け、日本・タイから輸出する自動車関連材の販売が増加する可能性
2 間接影響	
自動車関連材	日本、またメキシコ等から米国への輸出台数の減少により、自動車関連材の販売が減少する可能性
日本の顧客が米国へ輸出するアルミニウム部品	米国内に代替供給先がない製品が多いため、販売が短期間で減少する恐れは低い
■ 米国拠点 (TAA、UWH) への影響	
缶材	米国製缶メーカーの地産地消傾向がさらに強まる可能性
自動車関連材	米国OEMの米国製部品への切り替えにより、UWHへの部品引き合いが増加する可能性
原材料	- 新地金価格 (MWP*) は上昇 - スクラップ価格は今後の動向を注視

*MWP ミッド・ウエスト・プレミアム

【25年度通期実績 対 26年度通期最新見通し】事業利益・Adjusted EBITDA 分析

TAAの生産能力向上投資(熱間圧延増強・リサイクル設備増設)が増益に貢献

(単位: 億円)



設備投資・減価償却費

設備投資は計画通り進捗中。

一般投資による安定操業体制構築と、積極的な戦略投資遂行による企業価値向上へ

(単位: 億円 ※検収ベース)

	FY24	FY25	FY26 (見通し)	FY24~26 累計	FY24~27 見通し
設備投資	419	527	500	1,446	1,850
一般投資	188	208	300	696	900
戦略投資	231	319	200	750	950
補助金 等	← $\Delta 120$ →			$\Delta 120$	$\Delta 200$
設備投資 計 (補助金控除後)	-	-	-	1,326	1,650
減価償却費	381	401	440	1,222	1,665

4 | 主要指標推移

ご参考

(単位: 億円)

日本会計基準

IFRS

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度 1Q(単)	2026年度 (予)
連結売上高	5,698	7,829	9,629	8,928	9,988	11,817	3,774	14,000
連結営業利益	111	595	172	314	574	769	538	850
事業利益	-	-	-	434	459	482	257	860
棚卸資産影響前 連結経常利益	62	213	161	-	-	-	-	-
連結経常利益	60	523	87	-	-	-	-	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	△33	321	47	139	280	389	359	420
設備投資 一般投資	109	129	210	217	188	208	68	300
戦略投資	72	79	54	114	231	319	25	200
合計	181	207	264	331	419	527	93	500
減価償却費	334	340	373	364	381	401	107	440
有利子負債残高	3,358	3,394	3,367	3,109	3,407	3,887	4,103	-
ROE (%)	△1.8	15.6	1.9	5.3	9.9	12.2	-	11.5
ROIC (%)	2.2	11.1	3	7.5	7.6	7.1	-	11.5
D/Eレシオ(倍)*	1.56	1.36	1.25	1.0	1.0	1.0	0.9	1.0
NetDebt/EBITDA倍率(倍)	-	-	-	-	-	-	-	3.0倍レベル
営業キャッシュ・フロー	386	78	526	949	91	640	△ 72	-
投資キャッシュ・フロー	△ 210	△ 210	△ 269	△ 362	△ 369	△ 595	△ 159	-
フリーキャッシュ・フロー	177	△ 132	257	587	△ 278	45	△ 231	-
株主資本(日本基準)	1,775	2,090	2,096	2,105	2,139	2,476	2,769	-

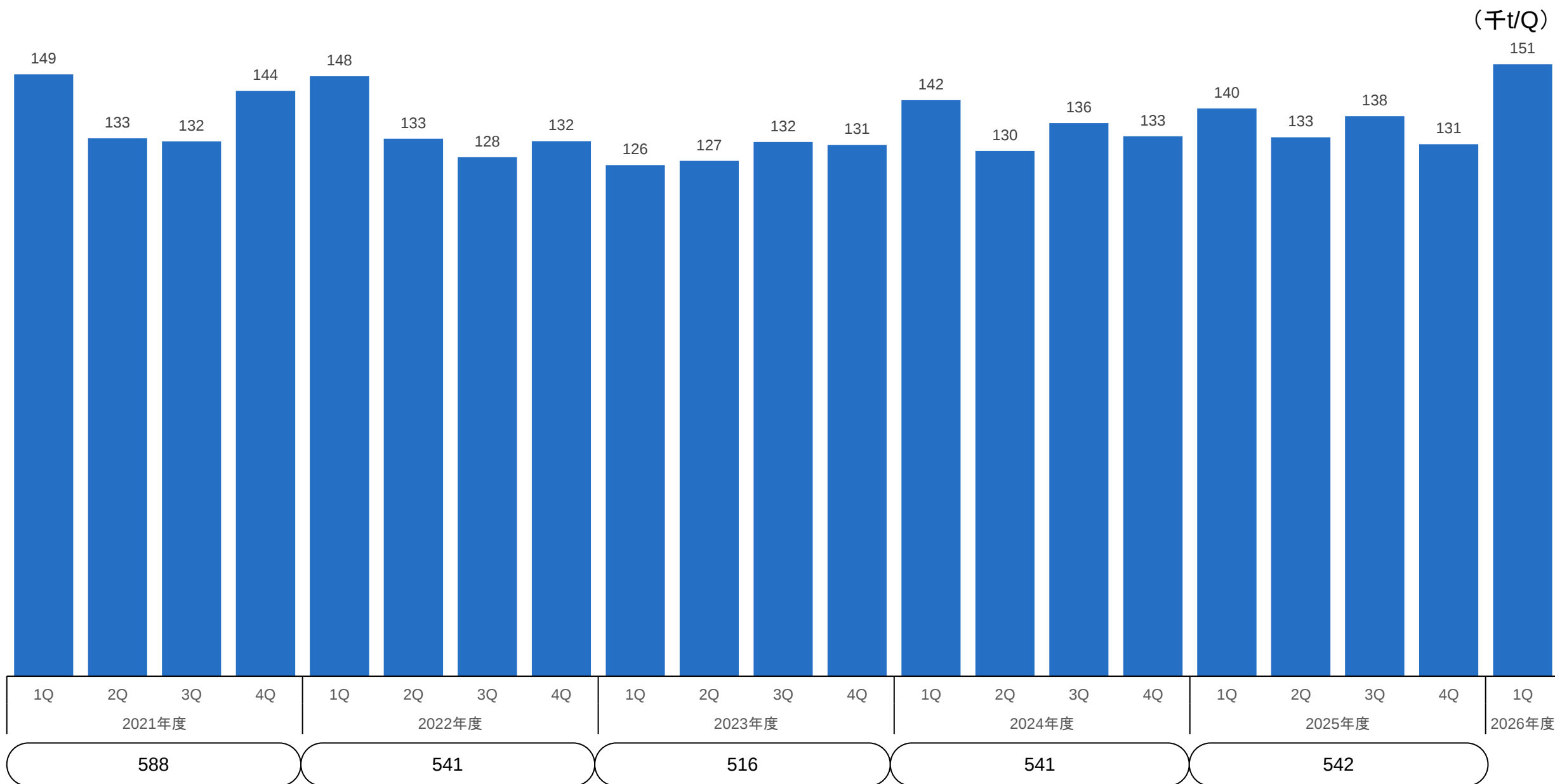
* 連結D/Eレシオは、有利子負債のうち借入金・社債を基に算出し、また劣後特約付ローンの資本性を考慮

海外主要子会社 業績推移

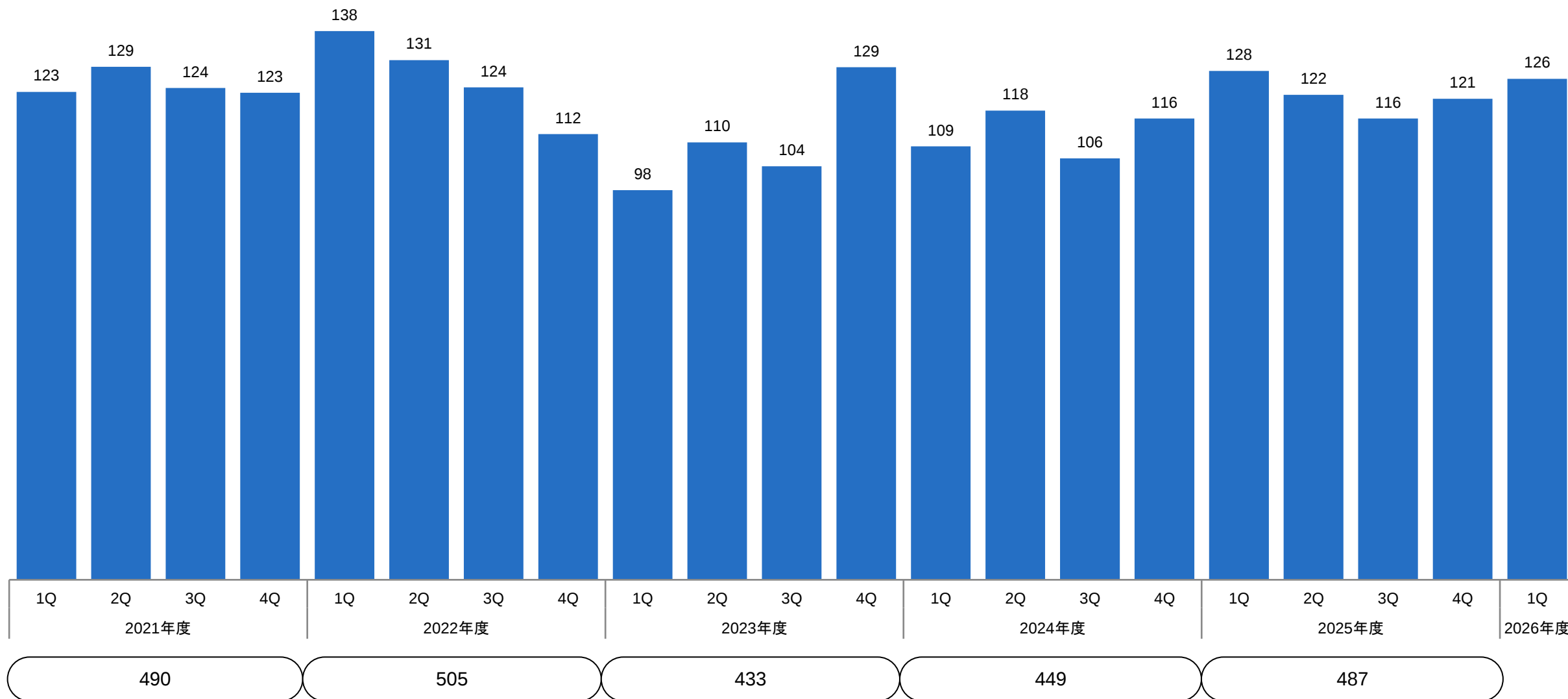
	2025年度							2026年度	
UATH	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	通期(予)
販売量(千トン)	74	83	157	84	78	162	319	79	328
売上収益	467	525	992	568	614	1,182	2,174	710	2,631
事業利益	0	5	5	3	△ 21	△ 18	△ 12	△ 16	11
(棚卸資産影響等)	△ 15	△ 10	△ 25	39	39	78	53	135	0
営業利益	△ 15	△ 5	△ 19	42	18	60	41	119	11
TAA	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	通期(予)
販売量(千トン)	128	122	250	116	121	237	487	126	489
売上収益	845	952	1,797	1,032	1,259	2,291	4,088	1,459	4,768
事業利益	50	53	103	99	107	206	310	181	718
(棚卸資産影響等)	16	73	89	83	128	212	300	121	37
営業利益	66	126	192	182	236	418	610	302	755
UWH	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	通期(予)
売上収益	94	100	194	96	105	200	395	108	446
事業利益	1	7	8	1	0	1	9	2	4
(棚卸資産影響等)	△ 1	△ 1	△ 2	0	△ 58	△ 57	△ 59	△ 1	△ 1
営業利益	△ 0	6	6	1	△ 57	△ 56	△ 50	1	4

*UATH、UWHの棚卸資産影響等には減損損失を含む

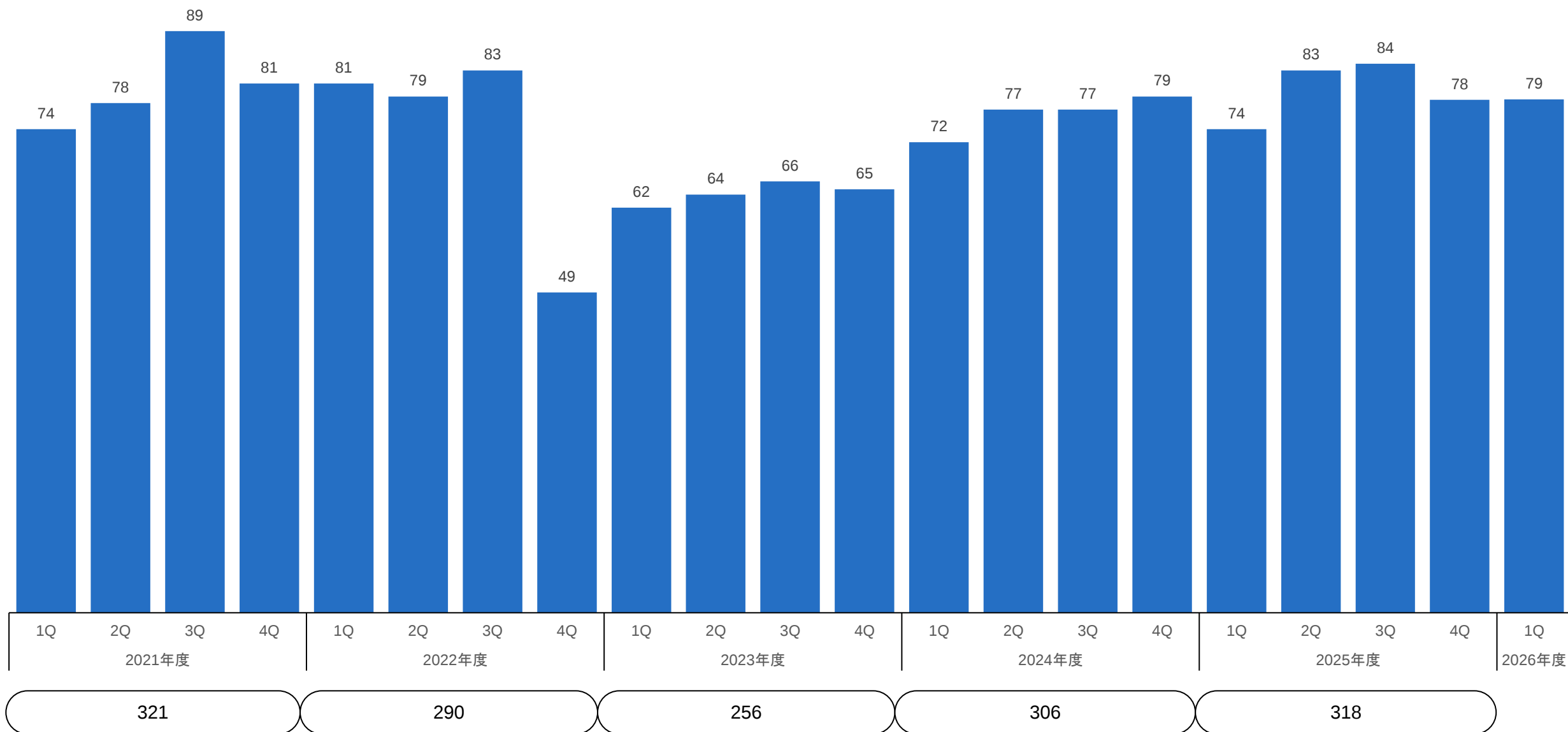
国内板事業 販売数量推移



(千t/Q)

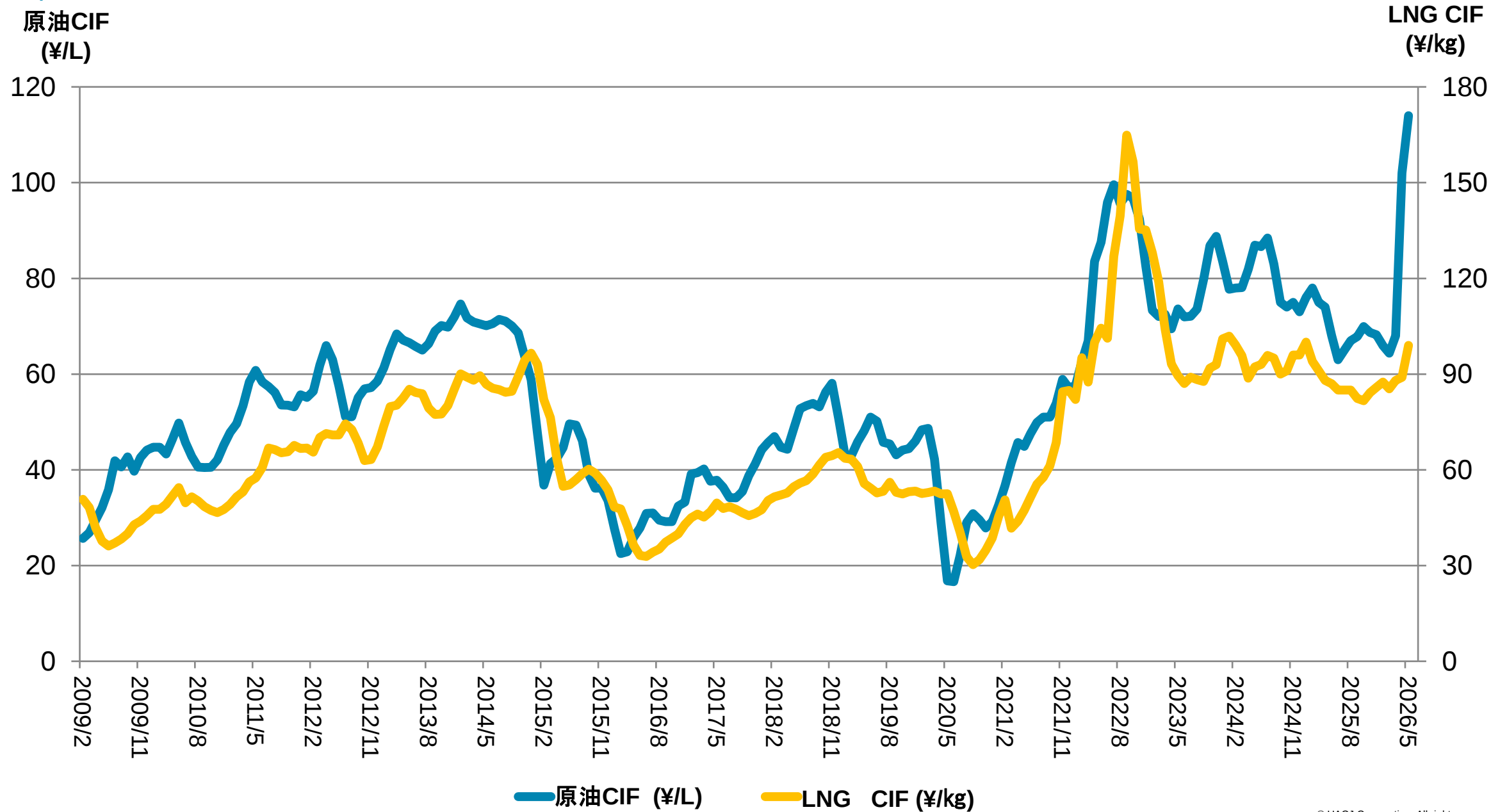


(千t/Q)

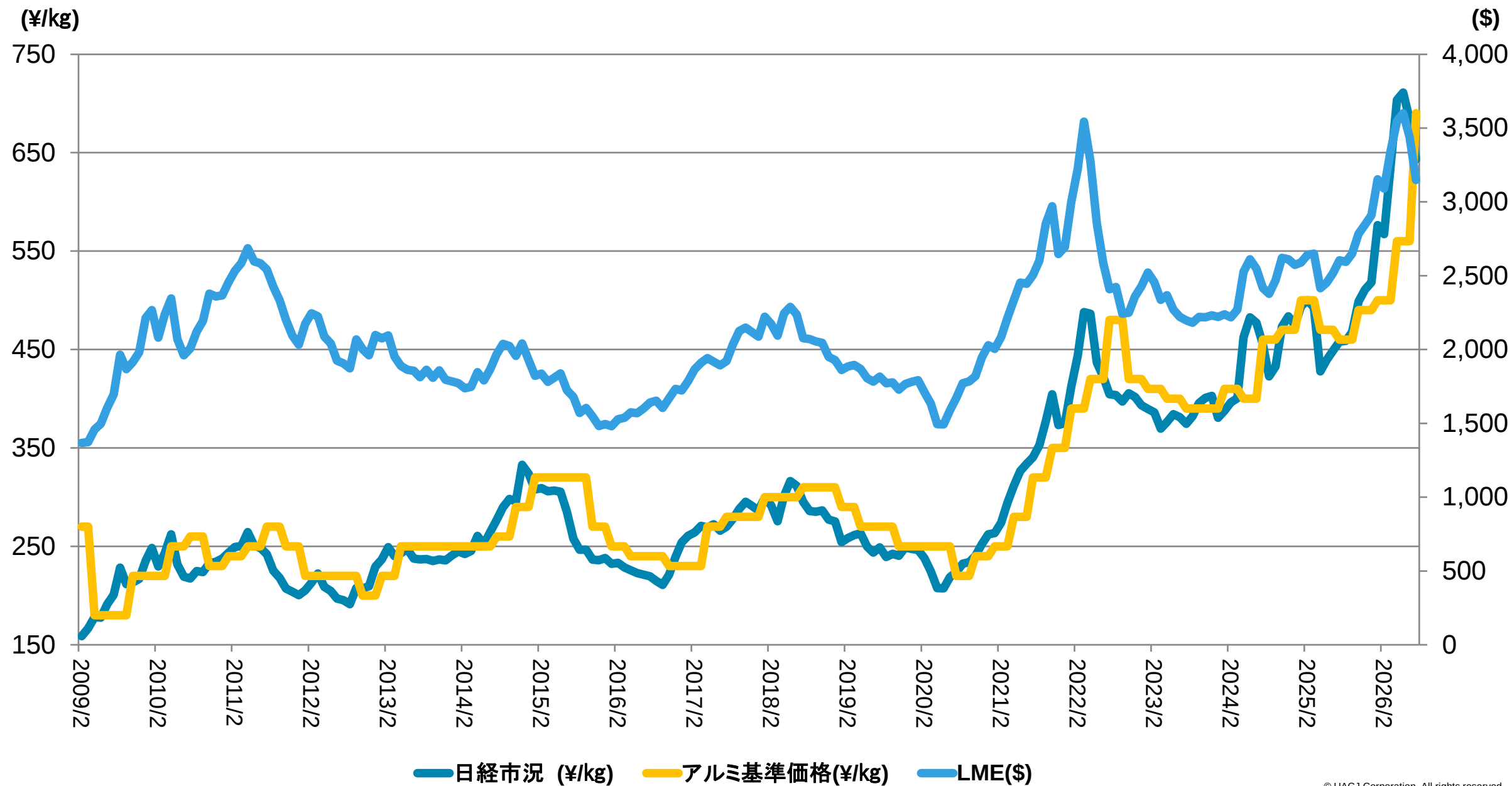


4 | 燃料単価推移

ご参考



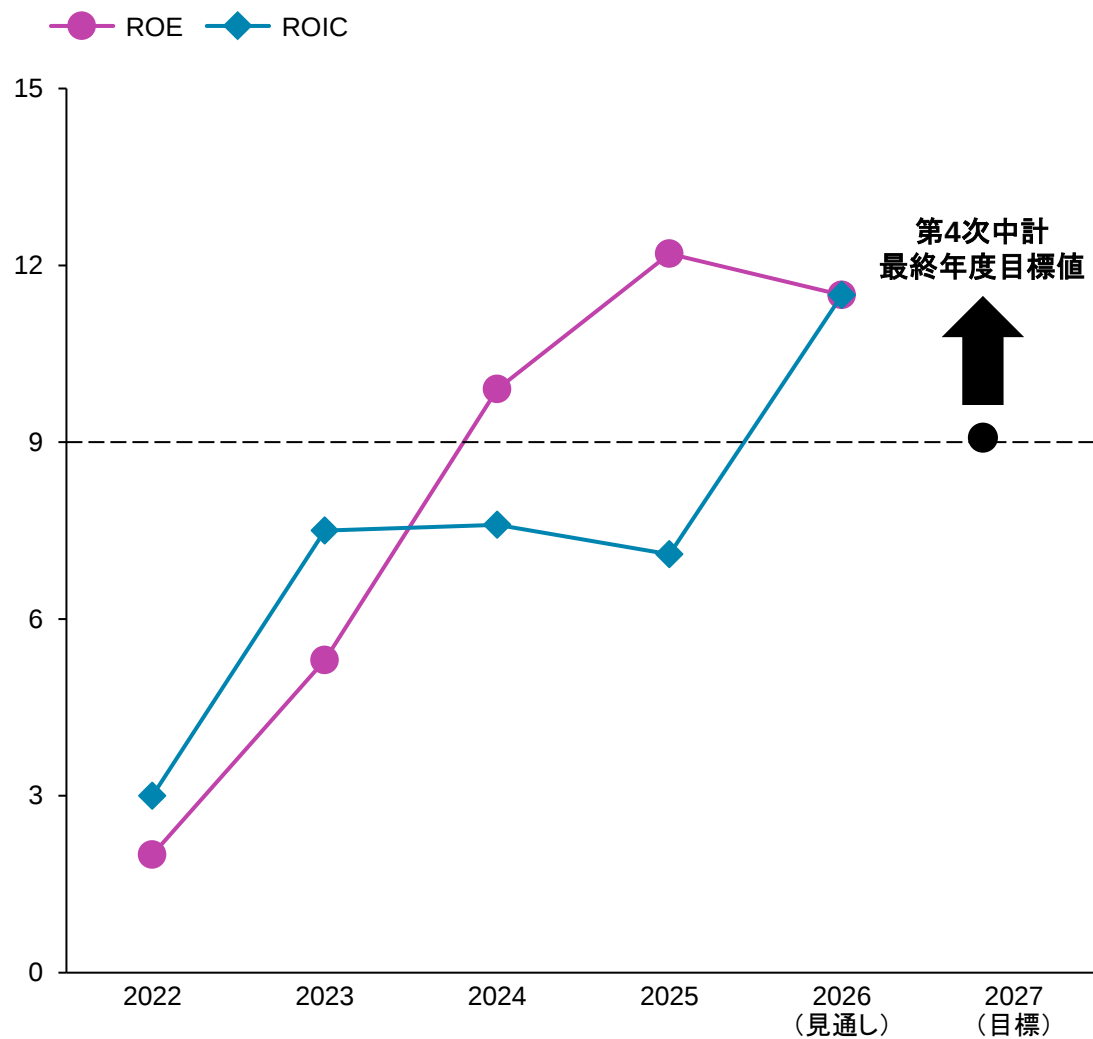
4 | ご参考 アルミ地金日経平均・アルミ基準地金



	2025年度 期中平均	2026年度 1Q平均	2026年度 前提 (5月時点)	2026年度 前提 (最新)	営業利益への感応度
LME(米\$)	2,772	3,576	3,200	3,169	\$100/t上昇した場合 →+22~35億円/年 ※棚卸資産影響等に含まれるため、事業利益への影響はない
為替 (円/米\$)	151	160	153	157	- 燃料単価、添加金属:円高が有利 - ロールマージン、為替換算差:円安が有利
為替 (円/タイバーツ)	4.7	4.9	4.7	4.8	
為替 (タイバーツ/米\$)	32.3	32.6	32.5	32.9	- 燃料単価、添加金属:THB高が有利 - ロールマージン、為替換算差:THB安が有利
原油 (ドバイ:米\$)	72	96	90	99	10\$上昇した場合 →△10~15億円/円 ※サーチャージ制一部導入済み

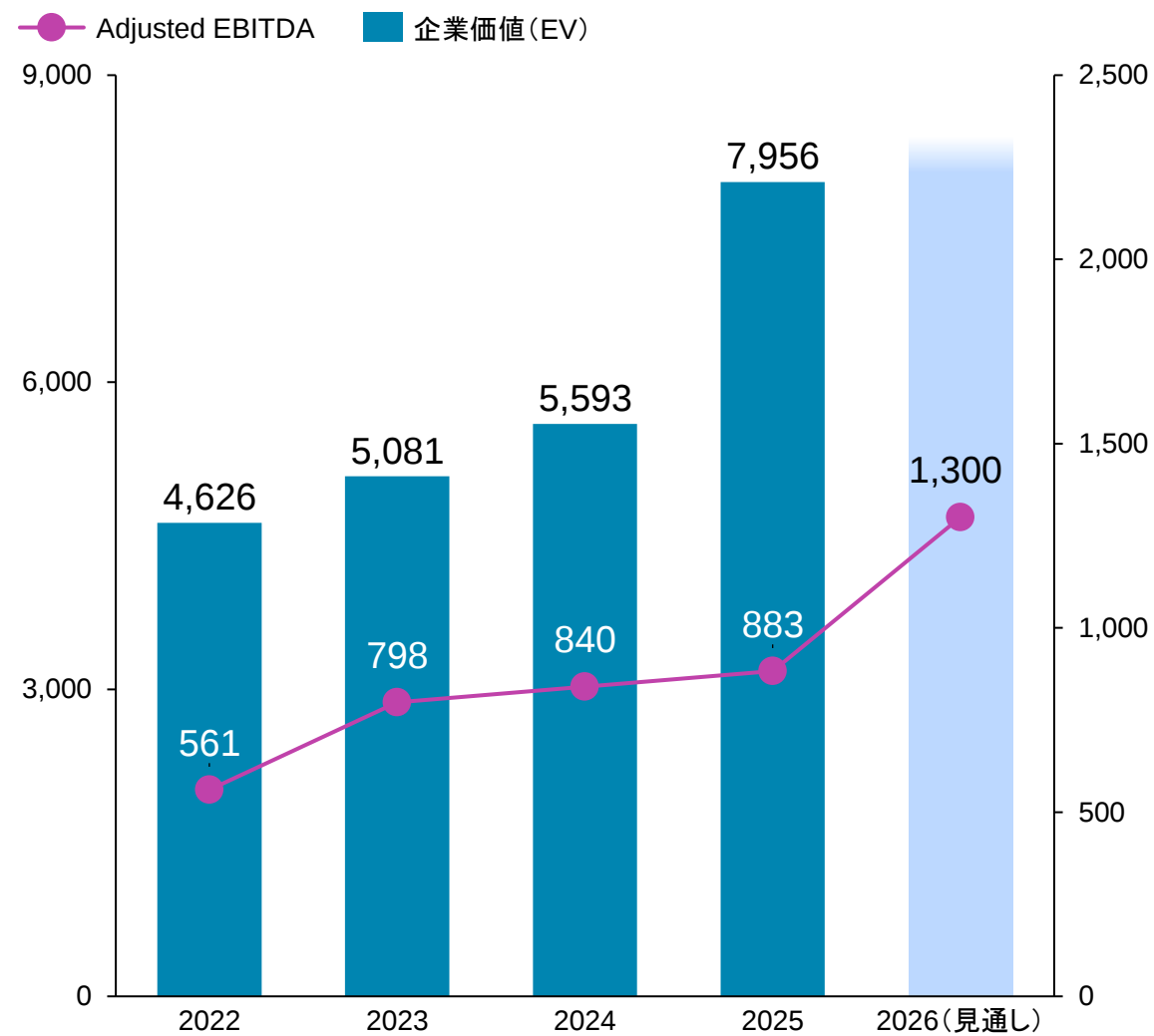
資本収益性と企業価値創出力

ROE、ROIC推移(%)



*ROICは事業利益を分子として算出

Adjusted EBITDA、企業価値(EV)推移(億円)



*企業価値(EV): 時価総額+有利子負債残高-現金及び現金同等物+非支配株主持分



Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上収益及び利益等の計画や見通しのうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上収益及び利益等と、この資料に記載されております計画や見通しとは、今後さまざまな要因により大きく異なる場合があります、確約や保証を与えるものではないことをご承知おきください。

また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社UACJに帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

本資料ならびにIR 関係のお問い合わせにつきましては、下記までお願いします

株式会社UACJ

コーポレートコミュニケーション本部 IR・広報部

uacj_ir@ml.uacj.co.jp

<http://www.uacj.co.jp>

東証プライム
証券コード

5741